

# オペラ「ラ・ボエーム」のドラマと演奏法

音楽芸術学科

星野 聡

*Satoshi HOSHINO*

## 序

遠い昔、私がまだ二十歳前後の頃、えらく年上の知り合いにオペラのレコードを借りた事があった。とても良いから是非聞きなさいと勧められて家に持ち帰り、半信半疑で歌詞カードを片手に聞いた。が、すぐに夢中になり、時間を忘れて一気に最後まで聞き、そして・・感動のあまり号泣した。若い私には衝撃的な経験だった。G. プッチーニ作曲のオペラ「ラ・ボエーム」。

衝撃的な出会いから今日に至るまで、学生であったころにも、卒業後職業人となり歌手としてまた指揮者として何度もこの作品と向き合ってきた。もはやこの作品の研究が私のライフワークだといっても過言ではないだろう。

これまでの研究内容を改めて覚え書きとして文章化しておこうと思う。

## オペラ作曲家 ジャコモ・プッチーニ

プッチーニが生まれたイタリアトスカーナ州の都市ルッカはローマの要塞として興り、中世にはフィレンツェやピサとトスカーナの支配権を争うほどの重要な都市国家であり、その城壁は16世紀後期に建造された。

絹織物でも有名なこの町は、宗教音楽の伝統を誇り、サン・マルティーノ大聖堂、サン・ミケーレ・イン・フォーロ教会、サン・フレディアーノ教会などのロマネスク様式の教会は、独自に音楽学校を所有していた。17世紀にフランチェスコ・ジェミニアーニとルイージ・ボッケリーニという著名な職業音楽家を輩出したが、プッチーニと同じ名前を持つ先祖のジャコモ（1712～1781）が1739年にサン・マルティーノ大聖堂のオルガニスト及び

び宮廷礼拝堂の楽長に任命されてからは、プッチーニ家が代々その職を引き継いだ。三代目であるドメニコの活躍はルッカのみに留まらず、作曲したオペラ『クインタス・ファビウス』は1810年にリヴォルノで絶賛され、ドイツのブライトコップフ社が出版したアルバムにはバッハ、ヘンデル、ベートーヴェンと並んで彼の肖像も掲載された。プッチーニの父である四代目のミケーレは宗教音楽に専念したが教師としても優れており、その業績はフェティスの『音楽家大事典』に名前が記される程であった。

ナポレオンによる支配の後、フランスとオーストリアの管理下の公爵領であった共和都市ルッカは1842年にトスカナ大公国に併合されたことにより、全ての音楽学校がひとつの音楽院にまとめられ、ジョヴァンニ・パチーニがその院長の座に就いた。パチーニは17歳で最初のオペラをミラノの小劇場で初演したのを皮切りに90近いオペラ作品を発表した。パチーニはロッシーニから協力を求められ、挿入アリアの作曲もしている。晩年には音楽教育をミケーレに託し、1862年にミケーレが音楽院の院長に就任した。音楽院はパチーニの死により1867年にパチーニ音楽院と名称を変えた。

父ミケーレが死んだときプッチーニはまだ5歳の子供であった。プッチーニが成長したら譲るという条件付きで、父の職は伯父のフォルトゥナート・マージが引き継いだ。母の兄であるマージも優れた音楽家であったが、激しい性格ゆえに揉め事を起こしては職を転々とする有様で、元来怠け者であったプッチーニはマージの厳しい指導から脱落してしまった。サン・ミケーレ教会付属の神学校へ入学し8歳の時に大聖堂へ通うことになるも、数学が苦手なため4年で終わるところを5年でカリキュラムを終えた。プッチーニは14歳で教会オルガニストとなり、マージが辞めたパチーニ音楽院で後を引き継いだカルロ・アンジェローニに作曲を学んだ。優れた教師であったアンジェローニのもので、プッチーニはその才能を開花させていった。

プッチーニがオペラ作曲家を目指すきっかけは18歳の時の出来事だった。当時イタリアオペラはヴェルディが席卷しており、1871年にカイロで初演された『アイダ』が1876年にピサで上演されることになり、プッチーニは友人らと30キロあまりの道のりを徒歩で出かけていった。その時のあまりの感動に彼は決心を固め、イタリアオペラの中心であったミラノを目指し真面目に勉学に励むようになった。

1877年19歳のときにサン・パオリーノ教会で演奏されたバリトンソロと混声合唱とオーケストラのための『讃えよ民衆を』が、ルッカ県新聞で「かえるの子はかえる」と5代続く音楽一家の血筋を引く才能であると賞賛された。翌年にも同じサン・パオリーノ教会でパチーニ音楽院の学生達による混成のミサ曲が演奏されたが、他の学生の作品はさほど注目されなかったにもかかわらず、プッチーニの『モテット』と『クレード』は高い評価を得、彼の類希なる音楽性は他を圧倒した。更に22歳のとき『キリエ』『グローリア』『サ

ンクトゥス』『ラウダムステ』『クムサンクトスピリトゥ』を新たに加え『四声のためのミサ』を完成させ好評を博した。

1881年、ついにミラノ音楽院に入学を果たしたプッチーニは作曲科の主任教授であったアントニオ・バッツィーニに師事したが、その年の11月に音楽院の院長が亡くなりバッツィーニが後任を務めることになったので、代わりにボンキエリが担当となった。オペラ作曲家を目指していたプッチーニにとって彼の影響は大きかったようだ。同じく彼に師事した仲間にピエトロ・マスカーニがいた。マスカーニは親の反対を押し切って音楽家を目指してミラノへやってくる、ともに貧乏学生であった二人はまさに『ラ・ボエーム』のような共同生活を送ったのであった。

初めて出版されたプッチーニの作品は1883年の『愛の小話 Stpriella d' amore』である。後にこれから「私はたった一人で自身の食事の支度をします Sola mi fo il pranzo da me stessa」という『ラ・ボエーム』第I幕のミミのアリアが生まれる。この年の7月プッチーニは音楽院を卒業するにあたり、卒業制作として「交響的綺想曲」を提出した。それは7月14日の学生コンサートで演奏され『ラ・ペルセヴェランツァ』紙で批評家に絶賛された。この曲の途中アレグロの部分は『ラ・ボエーム』の冒頭のボヘミアンのテーマに使われており、プッチーニはこの曲を自分の作品として残したいという気持ちが無かったようだ。

1883年プッチーニ25歳のとき、ソントオーニョ社のコンクールに応募するため一幕もののオペラ『妖精ヴィッリ』を制作するが審査員から拒否された。どうやらプッチーニの手書きの楽譜はほとんど殴り書きのようなものであったため審査員は判読が困難であるという理由で落選となった。この結果にプッチーニは非常に落胆するが、『妖精ヴィッリ』の台本作家であるフォンターナはこのままこの作品を埋もれさせてしまうのは惜しいと思い、ミラノの多くの芸術家が集まるサロンにプッチーニを連れて行き彼に弾き語りさせた。これが予想以上に好評で、すぐに上演する計画が立てられ、1884年5月31日にそれは実現した。その公演は大成功を収め、リコルディ社が版權を獲得した上、社長のリコルディがプッチーニにフォンターナの台本による新作オペラを発注し、それをスカラ座で初演する運びとなった。

プッチーニはオペラ作曲家としての道を歩み始めたその年に、彼が幼い頃から音楽家にするべく女手一つで育て上げてきた母アルビーナを亡くし、生涯の妻となるエルヴィーラと恋をして同棲を始めた。しかし人妻であったエルヴィーラは夫を捨ててプッチーニと駆け落ちしたため、夫との離婚が成立しないまま、20年もの間プッチーニとは正式に夫婦ではない状態で過ごした。

さて、プッチーニは2作目となる『エドガール』の作曲に取りかかるが、台本にあまり

気乗りがしなかったのと私生活のゴタゴタでなかなか仕事が進まなかった。結局 1889 年の初演まで 5 年もかかってしまい、その間リコルディはひたすらプッチーニの才能を信じ、会社での自分の首を賭けて彼の生活の援助を続けた。とはいえ、それは借金として前貸ししたもので、いずれは返してもらわなければならない金ではあったのだが。そしてようやくスカラ座での初演を迎えたものの『エドガール』は失敗に終わり、たった 3 回で打ち切られることとなった。

プッチーニは 3 作目の準備を始めたがその生活は非常に困窮し、リコルディの援助に頼るほかなかった。前作の失敗にもかかわらず、彼の才能と成功を信じて疑わなかったリコルディは会社の猛反対を押し切って彼を支え続けた。そんなプッチーニが次に選んだ題材は『マノン・レスコー』であった。これはすでにマスネが 1884 年に『マノン』として大成功を収めた作品で、リコルディも何度も反対したのだがプッチーニはこの作品のオペラ化に固執した。しかし肝心の台本作家が決まらず（プッチーニは前 2 作の台本作家であるフォンターナとは二度と組みたくないと思っていた）、当時はまだ世に知られていなかったが後に『道化師』を作曲するオペラ作曲家レオンカヴァッロに台本を依頼した。しかしプッチーニはその出来映えが気に入らずにそれを却下し、次に劇作家マルコ・プラーガに作成を頼んだ。プラーガは詩人のドメニコ・オリーヴァを引き込んで共同作業で書き上げた。前作での失敗に台本の重要性を痛感していたプッチーニは、出来上がった台本に大幅な変更の注文をつけるがプラーガはそれを拒否し、一方オリーヴァもその後しばらくは要求に応え何度か変更に努力をしたが、最終的にはついて行けずにやめてしまった。このままプッチーニの作曲家生命を終わらせるわけにはいかないと考えたリコルディは、文学界のベテランであったジュゼッペ・ジャコーザを彼に紹介した。オペラの台本作成にいまいち興味が持てなかったジャコーザは、友人の劇作家ルイーダ・イルリカも加えることを条件に渋々引き受けた。イルリカはプッチーニの無理難題にもよく応え、自分の手に負えなくなるとジャコーザに助けを求めた。プッチーニは間に入ったリコルディ宛てに何度も台本の変更の注文をつけ、リコルディはそれに対して痛烈な意見を述べ、結果として『マノン・レスコー』の台本はレオンカヴァッロ、プラーガ、オリーヴァ、イルリカ、ジャコーザ、リコルディの 6 人の手によって 1892 年に完成する。そして翌年 2 月 1 日にトリノで初演され、大成功を収めた。この作品によってプッチーニはイタリアオペラにおけるヴェルディの後継者として世に認められた。

『マノン・レスコー』の成功によってプッチーニはリコルディへの借金を完済し、あと一歩で売り払われようとしていた彼の生家を間際で買い戻すことができた。プッチーニは『マノン・レスコー』の成功後、直ちに次の題材探しを始めた。地位も安定してきたプッチーニは南アメリカへ渡って苦勞していた弟のミケーレをイタリアへ呼び戻そうとしたの

だが、黄熱病に罹って帰らぬ人となってしまった。生前のミケーレに宛てた手紙の中で「ブッダ」を題材にしたオペラについて書いているが、その案は早々に却下したらしくどのような内容であったのか詳細は不明である。もうひとつ、マスカーニが作曲した『カヴァレリア・ルスティカーナ』の原作者であるジョヴァンニ・ヴェルガの小説『ラ・ルーパ 牝狼』が候補にあがった。しかしこちらもヴェルガに直接会って台本の細かい打ち合わせをした後、プッチーニはこの作品に対する熱が一気に冷めてしまいオペラ化には至らなかった。これと並行してプッチーニとリコルディが題材として考えていたのが『ラ・ボエーム』であった。

1848年に出版されたフランスの小説家アンリ・ミュルジュ作の『放浪芸術家たちの生活風景』を題材にして、プッチーニは次の作品へ本格的に着手した。この小説はミュルジュの自伝と言っても過言ではなく、登場する人物で主人公のロドルフォはミュルジュ本人、他の仲間3人はみな実在した彼の知人がモデルであった。原作からロドルフォに関する描写を引用すると「色んな色をした鬚が生い茂って叢のようになり、その中に丸で顔が隠れこんでいるような人相をしていました。所がその男の額は年にも似合わずすっかり禿げ上り、恰度膝頭のように、一本一本数えられそうなその髪の毛で禿げた所を隠してはいるもののどうにも禿の方では隠れない。肱が坊主になった燕尾服を着用に及んで腕を上げる度毎に換気法を行おうという寸法。ズボンはたしかに昔は黒かったのであろうと思われるような色合を呈し、又これも矢張新しくない靴は、彷徨える猶太人に穿かれて五六回地球を歩き廻ってきたように見えます」とあるが、ミュルジュの写真を見るとまさしくそのイメージ通りであり、自身をモデルにしたというのも頷ける。この小説は1849年には戯曲化され舞台で公演されていた。

## 第 I 幕

さて、私が主宰するオペラ団での第1回公演に選んだのが『ラ・ボエーム』であり、これが私にとってオペラ指揮者としてのデビュー公演となった。

いろいろな方々のご好意により、とあるプロの楽団との共演がなかったのであるが、初回のオーケストラ練習での出来事は今でも忘れられない。非常に緊張してオケの前に立ち、挨拶もそこそこに第I幕のタクトをダウンしたのだが、そこで私は強烈な洗礼を受けた。前出の『交響的綺想曲』のアレグロ部分をそのまま引用したボヘミアンの生き生きとした感じの紛れもない「ボエームのテーマ」である冒頭部分、マルチェッロが歌い出すまでの39小節間が全く合わないのだ。弦のトップ奏者達に「君の指揮が下手だから合わないのだ」

と散々叱られた。今になって思えば私の指揮のテクニックの未熟さはもちろんだが、オーケストラのメンバー、とくに弦楽器の大半の人たちがこのオペラを全く知らなかったことが原因であることは明らかなのであるが、なにしろそのときは自分の頭の中で鳴っている音楽と、実際に演奏されている音とのギャップに気が変になりそうだった。

「音と同時にすぐに幕が上がる\_\_ロドルフォとマルチェッロ\_\_ロドルフォは物思いに耽って家の外を眺めている。マルチェッロは自分の絵『紅海の通過』の前で仕事をしており、寒さにかじかんだ手を時々息を吐いて温め、酷い寒さのために何度も姿勢を変えている」

マルチェッロの描いている絵はモーセの海割であろう。手に持った杖を振り上げると海が二つに割れてイスラエル人は救われ、紅海を渡ろうとしたファラオの軍勢は海に沈んでしまったという旧約聖書の中の話である。「俺の背中に滴が落ちてくるようだ。仕返しにファラオを溺れさせてやる」

一方のロドルフォは少しだけ振り向いて「空に…」と歌い始めるが、ここには *piacere* も *col canto* も書かれていない。テンポ通り突っ込んで来い！そして8分の3拍子から8分の6拍子に変わり、C-dur から B-dur へ、けれども *Lo stesso movimento*。私はこの調が変わり拍子も変わっているのに前のテンポを維持していくという指示の *Lo stesso tempo* が好きである。

この冒頭、オペラではロドルフォとマルチェッロが寒さの中、自分の才能を信じ、金はなくても希望を持って熱く生きる情景で始まる。その音楽と彼らの放つ言葉は、若かりし頃、まるで自分と同じ世界に住む人間であるかのように思い、自分の生き方を肯定してくれる作品という気がして心の底から嬉しさと共感をおぼえたものだ。

原作では最初ショナールが1人で登場する。金のないショナールが現在生活している部屋は1ヶ月25フラン。3ヶ月分の75フランを滞納しており、本日正午をもって支払わなければ部屋を明け渡さねばならない。当時の1フランは現在の1000円くらいだと思うので、彼の部屋の家賃は1ヶ月2万5千円くらいか。借金は7万5千円くらいということになる。正午を迎える寸前に支払いを迫る家主からなんとか逃げ出し、昼過ぎに金策尽きて帰ってくると次の借家人の青年と出くわす。これが絵描きのマルセル、つまりマルチェッロであった。マルチェッロは古代のフランス王を思い出させるようなつばの広い帽子を被っている画家である。ルーヴルにわざわざ断られるためとしかいいようのない同じ絵をその都度違った題名で提出し続けようとしている。オペラの中でマルチェッロは「この『紅海』は僕をへとへとにさせ、そして凍えさせる *Questo Mar Rosso mi ammollisce e assidera*」と歌いだす。ト書きには「座って絵を書き続けながら」とあるが座って歌い始める演出をあまり見たことがないし、私が演じた時もいつも立って絵を描いていた。

## No.1

MARCELLO

*a piacere* *a tempo*

Questo Mar Ros - so mi ammolli\_scee as - si\_de\_ra

譜例 No.1 最初の「Questo Mar Rosso」はテンポ通りに歌えるが「mi ammolli\_sce」は収まりきらないので、楽譜にも *a piacere* とある。それはよしとして *assidera* は *si* と *de* に十六分音符、*ra* に八分音符、これがなんとも不思議で、実際は *si* を長めに歌うことがほとんどだと思う。そしてこの *a tempo* の小節のオーケストラの出だしはテンポ通り入れば言うことはないのだが、先ほどの *piacere* があるためにほんの少し遅れ気味に入るのは仕方がないことであり、またその方が安全である。

続く練習番号②～④の手前まで歌手としては少しだけテンポの自由を任されているように感じてしまうものだが、無伴奏の部分も含めてこの機知にとんだ会話の中での各フレーズや、センチメンタルになりそうな *Amore* の言葉などで悩んだりわがままを引き起こさないように、至る所に *sempre in tempo* という表示が書かれている。

## No.2

(VUOTA) (impedisce con energia l'atto di Marcello)

(afferrando una sedia e facendo atto di spezzarla)

(VUOTA)

MAR sa\_cri-fi - chiam la se - dia!

(VUOTA) (4) f

譜例 No.2 練習番号④のひとつ前の小節、マルチェッロの *Sedia!* の高音は少し長く伸ばして歌いたいものだ。実際、私の指揮した公演でも「ここを長く伸ばすよ」とベテランの歌手の方に言われ私も同意して従ったが、やはりあの時「いいえ、*in tempo* でお願ひします」と言うべきだっただろうか。

ロドルフォがストーブの火の材料を見つけたと聞いて、マルチェッロは一瞬自分の絵を焼かれるのではと心配するが、まあ常識的に考えてみて一緒に住む芸術家の卵同士で、寒いからと友人の芸術作品を燃やして暖まろうなどということ言うわけがないと思うのだが、普段からそんな気を遣わず自由奔放に生きているのがボエーム的な人々の感覚なのであろう。ロドルフォが「絵を描いたキャンパスは燃やすと臭いから、代わりに僕の書いた熱い戯曲を燃やそう」と言う。マルチェッロはいつまた自分の絵が燃やされるか不安なの

で奥の方へ片付けながら「そんなことを言って読んで聞かそうって言うんだろ、凍えるぜ」と相変わらず軽口をたたく。自分の描いた絵が燃やされるなどあり得ないのだから、ロドルフォも自分の書いたものを燃やすはずがないとマルチェッロが思うのも無理はない。差し出された戯曲の原稿を受け取り、破ってストーブに放り込み火をつけるとき、マルチェッロは全く信じられない気持ちだ。破ってくれというロドルフォの顔を見て「良いのか？本当に良いのか？知らんぞ！破るぞ！ビリビリッ！うわっ、うわっ!!」

そして燃え上がる炎を見ながら「何故だ？あんなに時間をかけて作り上げた戯曲なのに。もう3幕まで仕上がっていたんだぞ。んんん…きっと仕上がりが気に入らなかったのだろう。いや、題材自体が疑問なのかも知れぬ。ここでこの戯曲を完成させるのを止めてもまたすぐに別のものを書く勝算があるのだろう。すごいぞ！天才はやはり違うな。尊敬する～!!」とまで彼が思ったかどうかはわからないが、ロドルフォが芸術家として少し高いステージにいるのではと思わせる場面である。

### No.3

(dà a Marcello una parte dello scartafaccio)

R. *-riglio!*  
(con esagerazione) A te l'atto

MAR. Gran cor!

(5) *a tempo*  
*fp* *dolecissimo*

R. *pri - mo.* Straccina.

MAR. Qua.

(Rodolfo batte un acciarino, accende una candela e va al camino con Marco)

MAR. *Ac\_cen.di.* *f*

音楽の方に注目すると、譜例 No.3 練習番号⑤からずっとヴァイオリンがトレモロを、ハーブがアルペッジョを奏でている。これはストーブにくべられた原稿が燃える様子を表し



ている。火がつくのは⑤の後 12 小節目であるから、⑤からのトレモロが火を表しているとすると早いのではとも思うが、聴衆の耳に「ほら、燃やすぞ、火がつくぞ」と先に連想させ、⑤の 12 小節目の *cresc.* で実際に火をつけたというプッチーニの心憎い手法であろう。

#### No.4

(6) *ff* *un po' sostenuto*  
 entra Colline gelato, intrizzito, battendo i piedi, gettando con ira sul tavolo un pacco di libri legato con un fazzoletto)  
*a tempo*

譜例 No.4 ⑥でホルン、ヴィオラ、チェロの *ff* 八分音符の太い音とともにコルリーネが登場する。本を質に入れようと出かけたがクリスマスイヴで店が閉まっていたらしい。哲学者ということだが原作では「奇妙な男でした。大きな青い、始終何物かをちいっと見据えているような眼は、よく神学生の顔に見掛ける敬虔な静けさを、その顔に興えています。顔色は古びた象牙のような色だが、只頬だけが煉瓦のように色どりをされています。口は新参の生徒が描いたような恰好で、唇は黒奴のように反りかえり、白ネクタイの上に鎮座ましましている頤についている二つの筋は、一方は地面の中へ突き入りそうに見えます。着ている樺色の外套はまるで荒砥のようにザラザラしています」とわかるようなわからないような説明がされている。

#### No.5

*pp* (a Colline) (VUOTE)  
 Non far su - sur - ro.  
*string.*  
 (8) *pp* *rapidamente* (VUOTE)  
 (Rodolfo straccia lo scartafaccio e lo getta nel camino: il fuoco si ravviva - Colline avvicina ancora più la sedia e si riscalda le mani: Rodolfo è in piedi presso ai due, col rimanente dello scartafaccio)  
 LO STESSO MOVIMENTO *a tempo* Pen - sier pro.  
 Sostenendo *ff* *a tempo* *pp* *staccatissimi*

ロドルフォが「第2幕だ！」と原稿を掲げ、マルチェッロがコルリーネに「音を立ててはいかんぞ」とたしなめた直後の練習番号⑧の *rapidamente* にフルートとクラリネットが

スタッカートで十六分音符の上行形を演奏するが、この音は非常に特徴的で明らかに何かを表現している。実はその直後の *Lo stesso movimento* で2小節間、トランペットとホルンが交互に四分音符を鳴らすのだが、私はどうしてもこの音が炎が上がる様子に聞こえてしまうのだ。ここのト書きには「ロドルフォは下書き原稿を引き裂き、そしてそれを暖炉に投げ込む。火は勢いを取り戻し…」とある。そのためこの四分音符はロドルフォが原稿を破った音だと解釈する人が多いのだ。しかし私は目を閉じてこの音楽を聴いていると⑧の前に原稿を破ったロドルフォが、⑧からの2小節間でその原稿を暖炉に投げ込み、四分音符4つで炎が大きく燃え上がり、その次の部分から火の粉を散らしながら安定して燃えている情景が思い浮かんでしまう。だから私はこのト書きの前半部分を⑧のところに書いてほしいと思うのだ。

## No.6

(dalla porta di mezzo entrano due garzoni, portando l'uno provviste di cibi, bottiglie di vino, sigari, e l'altro un fascio di legna. Al rumore i tre innanzi al camino si volgono e con grida di meraviglia si slanciano sulle provviste portate dal garzone e le depongono sul tavolo: Coline prende la legna e la porta presso il caminetto)

ALLEGRO

MAR -tor!....

C -tor!....

(10) ALLEGRO

*f* deciso

譜例 No.6 ⑩でショナールが帰ってくる。彼は音楽家としての仕事で稼いだ金で酒や食料をなど沢山買い込んでくる。オペラではその経緯を仲間たちに意気揚々と説明しているのだが、皆は彼が持ち込んだ食料に夢中でまるで聞いていない。その内容は、イギリスの金持ちが飼っているオウムに死ぬまで楽器を弾いて聴かせるという仕事だったらしく、三日三晩弾き続けても死ななかつたので（それでも3日も頑張ったのはすごいと思うが）オウムにパセリを食わせて殺したというもの。私は知らなかつたのだが、一部の鳥類ではパセリを食べた後日光浴をすると体内で毒性物質になると言われているらしい。ショナールは自分が稼いだ金だが、仲間で分け合うことに何の抵抗も感じていないようだ。

No.7

その場で全部食ってしまうおうとする仲間たちを制して、クリスマスイヴなんだからカルティエ・ラタンに行って祝おうと提案する。譜例 No.7 ⑩の音楽は、紛れもなく第II幕冒頭のパリの喧噪を表すトランペットのファンファーレを木管とハープで想像させるものだ。

出かける前にまずは家で酒だけを飲んでいるところへ、家主のベノアが滞納した家賃の取り立てにやってくる。原作での家主はとてどもヒステリックな頑固者で、支払いが滞ればさっさと追い出して次の借家人が即やってくるという感じだが、オペラでは4人に対してビクビクしたとてども気弱な人物で「出来れば払ってほしいなあ」くらいのイメージである。滞納している家賃は原作と同じく3ヶ月分はどうやらこの家の借り主はショナールではなくマルチェッロのようだ。このボヘミアンたちと家主との間に繰り広げられるコミカルな場面の音符は非常に多彩で楽しいものである。マルチェッロには家賃を踏み倒すことのできる確かな策があり、ベノアはまんまとその罠に嵌まっていく。

No.8

譜例 No.8 ⑱でまずはピアノをもてなす準備に入るが、速度指定♩=100 は意外に速い。

No.9

(appoggiando i gomiti sulla tavola)  
*Appena Meno con marcata intensione*

MAR. *ANDANTINO* ♩ = 56

-gnia. Di - ca: quant'anni ha.....

*Appena Meno*

(19) *p* *rall: . . . . .* *p*

そして罫に嵌めるくだりのスタートする譜例 No.9 ⑲は♩=56 でこれはかなり遅く感じ、間延びする感じさえする。しかしルイジ・リッチによると♩=69 となっており、それならかなりしっくりくるテンポだ。その上で3小節目に *appena meno* わずかに遅くとあり、マルチェッロのずるい策を巡らす様子を十分に表せるテンポだ。

No.10

*LO STESSO MOVIMENTO* ♩ = ♩.

MAR. *Sostenendo* (ringalluzzito)

- la - va ar - zil - lo, pet - to - ru - to.

B (20) *Sostenendo pp* *cres. e accelerando poco a poco* *Son*

*LO STESSO MOVIMENTO* ♩ = ♩.

譜例 No.10 ㉔は *Lo stesso movimento* だが *Piu mosso* に向かって string.次第に速めると指示される。ピアノがどんどん乗せられて良い気分になり自慢話を始める。

No.11

LENTO

B

.ca.pi... e son pie - ne di do - glie, per e - sem - pio: mia

ppp LENTO

p

②の3小節前のLentoはin 4と指示がありゆっくりと。ついにベノアが罨に嵌まり妻のことが嫌だと告白する。「Per esempio…」のeからhへの移行は非常に難しく大抵の場合eからcへと短2度高くなってしまうのだ。これはクラリネットがDm→E7→そしてEmと和音を作っているのに、ヴァイオリンが思い切りCの音を出しているので一瞬Amかと勘違いしてしまうからだ。

No.12

rit.

(sveste il camiciotto da lavoro e indossa l'abito)

a tempo

MAR

bada alla decen-za. Or - so, ravviati il pe - lo.

COLL.

Farò la cono -

rit.

col canto

a tempo

f

C

-scenza la prima volta d'un barbiton - so-re. Guidatemi al ri -

p

rit.

a tempo

f

C

-dicolò oltraggio d'un ra - so - io. An -

pp

ROD.  
 MAR. (comicamente) *p*  
 SCHAU. (comicamente) *f* Andiam!  
 An - diam! an - diam!  
 C. *p*(comicamente) Andiam!  
 - diam!...  
 ANDANTINO  $\text{♩} = 92$   
 R. re - sto per terminar l'ar - ti.co.lo di fon - do del Ca -  
 (23) ANDANTINO  $\text{♩} = 92$   
 R. - storo. Cinque minuti. Co..nosco il mestier.  
 MAR. Fa presto.  
 COLL. T'aspetterem dab.

こうしてまんまとベノアのことを不道德もののだとして追い出し、いよいよカルティエ・ラタンへと出かけていく。コルリーネが散髪屋へ行く気になる譜例 No.12 「Faro la conoscenza la prima volta d'un barbitonsore」はブッチーニは♩=92と指示しており少々忙しいが、これは次の⑳と同じテンポであり、うまく行けば⑳は非常に気持ちが良い。ところでそのコルリーネが歌う「rasoio」という言葉、イタリア語では母音に挟まれたsは濁るのではないかとよく話題になるが、この場合「ラソイオ」「ラソイオ」どちらの発音でも良いようだ。

⑳でロドルフォは自分は残って少し仕事をすると言う。ここでコンサートマスターは弱音を外して1幕冒頭の「Nei cieli bigi…」の旋律をヴァイオリンソロで演奏する。

No.13

R. Cinque minu.ti.

MAR. Se tardi udrai che co.ro! (nell'escire)

SCHAU. Tagliacorta la

C. basso dal portier

S. coda al tuo Ca - stor! ALL: VIVO (1º tempo)

ALL: VIVO (1º tempo)

ROD. (sul pianerottolo, presso l'uscio aperto alzando il lume)

(di fuori) A - dagio!

MAR. Occhio alla sca.la, Tienti a.la rin.ghiera.

SCHAU. (di fuori) Male - det - to por - tier!

COL. (di fuori) E bu - io pe - sto!

(rumore d'uno che ruzzola) (gridando) Acci - den - ti!

ROD. *rapidamente* Col - li - ne, sei mor - to? (lontano, dal basso della scala) Non an -

MAR. (più lontano) Vien pre - sto!

- cor!

譜例 No.13 ㉔では8分の3拍子を in 1 で取り完全に幕開きと同じテンポになるが、最初の小節は除いて順に4拍子→4拍子→4拍子→3拍子→3拍子→4拍子→4拍子→4拍子→3拍子と感じて振ると非常に分かりやすく体に入りやすい。



No.14

*ALLEGRETTO*  
(scrive, s' interrompe, pensa, ritorna a scrivere)

R

(25) *ALLEGRETTO*  
*pp*

(s'inquieta, distrugge lo scritto e getta via la penna)

R

*MIMI*

*LENTO* (di fuori)

(sfiduciato) (si bussa timidamente alla porta) Scusi. (alzandosi)

R

Non sono in ve. na. Chi è là!? Una donna!

*LENTO*  
*ppp*

譜例 No.14 ㊸からロドルフォは仕事を始めるがイマイチやる気が起きずはかどらない。忘れてはいけないのは仲間たちに5分だけ待ってくれと言ってあり、みんなは階段を降りて少し離れた門番のいるところで彼を待っているということだ。㊸の11小節目のフェルマータに『si bussa timidamente alla porta 戸口におずおずとしたノック』とト書きがある。これはもちろんミミのノックである。ミミは隣に住んでいて(後で自分のことを「ご厄介をかけるお隣ですわ」と言っている)灯りが消えてしまったので火をもらいたくて来たと

言うのだが、ではこの火はもともとどこでもらったものか。自分でつけたものではないはずである。少し話は戻るが、先に出て行った仲間たちは真っ暗な階段を手すりを頼りに降りていく。ショナールが「くそ！いまましい門番め！」と怒鳴っていることから門番のせいだ。そう考えるとミミが持っていた火は門のところで門番につけてもらったものであると推察される。しかし外から帰宅して門からまっすぐ来たとなると仲間たちとすれ違ってしまふ。いくら暗いとはいえ火のついたろうそくを持った若い女とすれ違って3人の男たちが気づかなかったとは思えない。そうするとミミは一度は自分の部屋に帰ったものの、火はそこで消えてしまった。ならばもう一度門番のところまで行けばつけてもらえるのに何故隣へ訪問したのか。暗い中階段を降りるのが嫌だったか、門番のところまで行くのは遠いので面倒だったか。なんだかそんな理由では楽しくない。もしかするとミミは隣にどんな人が住んでいるのか知っていたのではないだろうか。あれだけ大声でわいわい騒ぐ男たちの声が聞こえていないとは考えにくい。お隣さんは若い男4人であることをミミは知っていたのではないかと思えるのだ。そしてその4人のうち、いつもキャンパスを持ち歩いている男、楽器を持ち歩いている男、古本を持ち歩く男の3人が階段を降りていった。部屋に残った1人は何とも良い雰囲気の方であると分かっていたのだ。そう考えるとずいぶん違ったワクワクするような楽しい情景が浮かび上がってくる。ミミは以前からロドルフォにほのかな好意を持っていた。今日はクリスマスイヴだし、偶然彼が独りになったこの機会に灯をもらいに行き『どんな方なのか近くで見てお話できたらいいな』と、ドキドキしながらノックをしたならたまらなく魅力的だ。

ロドルフォはミミの声を聞いて驚く。女性が訪ねてくるなんて初めてのことであったろう。「S'accomodi…お座りください、(部屋に)お入りください」と誘う。さすがにミミとしてはハイハイとは言えないので「Non occorre 必要ありません」と断る。しかしロドルフォはしつこく「La prego,entri.どうぞ、入って」ミミはここでそっと部屋へ入る。初めて観客がミミの顔をちゃんと見ることが出来るのはここだ。その途端ミミは息苦しさに襲われ、驚いたロドルフォは「Si sente male?気分が悪いのですか？」と尋ね、「No…nulla.いいえ、何でもありません」と答えるミミ。「Impallidisce!顔色が真っ青だ!」「Il respir…Quelle scale…息が…その階段で…」階段？咄嗟にそう言ったミミだが、階段で息が切れたというのは嘘であろう。息が苦しいのは病気のせいであることを本人もうすうす気づいていたのではないだろうか。だから隠したかった。その上この直後には気を失ってしまうのだ。すぐに病院へ連れて行ったほうがいい。この二人の刺激的な恋の始まりの前に、こ

んなに素敵な出会いの瞬間に、悲劇の予感がバッチリ盛り込まれてしまっているのだ。

気を失ったミミに困惑するロドルフォは、水を取りに行き彼女の顔に水飛沫を振りかけるのだが、ヴァイオリンのピチカートで4回、もうこれはこの音に合わせて振りかけるしかないような強烈なプッチーニの音による指示だ。このあたりがオペラというよりまるで映画音楽のようだと言われる所以であろう。

そしてミミが目を覚ます。ロドルフォは火の側に座らせてあげようと思うが、まだ具合の悪いミミは立ち上がる力もなく断る身振りをする。ならばと座ったままのミミにロドルフォは少しワインを勧める。次第に意識を取り戻しありがとうと感謝するミミに、少しホッとしたロドルフォは思った「*Che bella bambina!* なんてきれいな女の子だろう」一目惚れだ。少しでも長く一緒にいたいと思うロドルフォだが、ミミは火をもらってすぐに帰ろうとする。ところが、倒れた時に部屋の鍵を落としてしまったことに気づいて、戸口のところまで戻って来たミミのローソクの火が風で消えてしまい、自分のローソクを持って近づいたロドルフォの火もまた消えてしまう。暗い部屋の中、鍵を見つけなければミミは帰れない。しかしロドルフォにとっては千載一遇のチャンス、とまでは言わなくともなんとも嬉しいハプニング。鍵を探すという名目で真っ暗な中、この美しい女の子とまた一緒にいられるのだ。楽しくてウキウキである。だがロドルフォは早い段階で鍵を見つけ、思わずアッと声を上げてしまったことを後悔してポケットにそれを入れる。「*L'ha trovata?* 見つけましたか？」と問うミミに、2拍目裏で短く八分音符で「No!」と答えるロドルフォが面白い。ミミも完全に嘘だろうと疑っている。当然だ。あとは暗がりの中近づこうとするロドルフォに、それを感じ取るミミ、そしてついに手を取られ「Ah!」と声を漏らしたところへクラリネット、ホルン、ハーブのポーンという効果音。

ミミの方ももし嫌であれば強く手を引っ込めて立ち上がり「何をするの!」と抗議すればいいのだから、やはりこの瞬間嬉しかったのだろう。もう一度確認するが、以前から彼のことが気になっていた、ちょっと素敵な人だなと思っていたということ間違いはない。なんといってもミミがノックしてからここまでわずか3分半なのだ。

No.15

a - ria..... l'anima ho mi - lio - na - - - ria. Ta  
 cresc. allarg. 3 con molta espress. rit. f ff ppp

譜例 No.15 ロドルフォのアリアで「l'anima ho milionaria」の3拍目のFはフェルマータをつけてもよいと指示があるが、それはテノールの歌から見た場合であり、指揮はオーケストラの3拍目と4拍目にある3連符を無視できないから、3拍目から3つに分けて4拍目の2つ目の音符ではじめて少し止めて次の小節へ進むしかない。

No.16

- iel - li due la - dri:gli oc - chi bel - li. V'en -  
 dolciss. 7 3

その4小節後、譜例 No.16 の3拍目と4拍目 (ladri:gli occhi) は rallentare して次の小節は a tempo である。

No.17

*poco allargando*  
*con anima*  
 e i bei so-gni mie - i..... to-sto si di - le  
*poco allargando*  
*f*  
*p*  
*dolciss. molto rall. a tempo*  
 - guar!..... Ma il fur - to non m'ac - co - ra  
 (55)  
*dim.*  
*molto rall.*  
*stent.*  
*a tempo*  
*pp*

譜例 No.17③の2小節前からは1拍を3つに分けて振らないと、とても歌の allargando に合わせられない。③の1拍目と2拍目は a tempo で3拍目からまた rall.そして4拍目の3連譜の2つ目の音で少し止めて次へ進む。

No.18

*allarg.*  
*a tempo*  
 R. la spe - - ran - za!...

その後譜例 No.18 Hi C でフェルマータする。

No.19

con anima  
sientando  
allarg.  
rall.  
col canto

parla-te vo - i, dehlparlate.Chisie - te? Vi piac-cia

譜例 No.19-1 小節目の4拍目 (parlate voi のi) から分けて2小節目は in 12、3小節目は2拍目の2つ目のフェルマータで止まり過ぎず3つ目の音の方を長く大切にする。

No.20

(sempre seduta)  
con semplicità

Si. Mi

AND.<sup>te</sup> LENTO ♩ = 40

chia.ma - no Mi - mi

AND.<sup>te</sup> LENTO ♩ = 40

pp

(35)

続いて譜例 No.20 ミミのアリアは㉓ 4拍目を分けて「Mi」を拾う。次の小節は in 4 で。「chiamano Mimi」の-no から Mi-へはポルタメントだが、次の-mi への移行はポルタメントしないで。

No.21

ma il mio no - me è Lu - ci - a.....

*pp*

続く「ma il mio nome Lucia」もポルタメント無しで話すように素朴に。この間♪=80は崩さずに正確に。

No.22

La sto-ria mia è bre-ve..... A tela o a se-ta ri-camo in casa e

*ppp*

譜例 No.22-1 小節目(La storia)からは in 2 で un poco piu mosso ♩=46。4 小節目の 2 拍目 (camo in casa e)は分けて

No.23

fuo-ri... Son tranquilla e lie-ta ed è mio sva-go far gigli e

*pp* *espress.* *pp*

次の小節は in 4、そして 3 拍目でフェルマータ。③⑥の 4 つ前 (Son tranquilla e lieta) は③⑤の 2 つ目と同じに qui-から-lla e はポルタメント、li-eta へはポルタメント無し。「ed e mio svago far gigli e rose」も話すように素朴にポルタメントはしない。(特に gigli e の部分)

No.24

rit.  
di pri-ma - ve-re,.....  
col canto  
pp

譜例 No.24 ㉔の4小節目(prima-)のpri-はフェルマータ、dim.して ve-re は piano で。

No.25

LENTAMENTE  
MIMI  
Mi chiama-no Mi - mi, il per - chè non so.  
LENTAMENTE  
molto espressivo  
pp pp pp

No.25 の最初の3小節は in 4、後の2小節は in 2で。

No.26

Poco rall. ....  
Ardante sost. molto dolce.ma con molta anima  
e in cie - - lo. ma quan-do vien lo

譜例 No.26 ㉕の1つ前の小節 (cie-lo の-lo) は2分音符で歌い、ブレスをせずに ma に入る。

ロドルフォはアリアの中で自分が詩人であること、そしてミミに恋をしてしまったことを告げる。ミミは自分の名前はルチアであるが皆はミミと呼ぶこと、麻や絹に百合やバラの刺繍をして暮らしていること、そして愛や青春、夢、空想について自分に語りかける詩が大好きであることを告白する。これはロドルフォの愛に応えたものに他ならない。春になれば太陽は雪を溶かし自分を暖め、草花は芽を出し花の香りに包まれる。だが自分が作る花には悲しいことに香りが無いのだと締めくくる。このことはミミ自身の生命力の弱さ、彼女の命の儚さを連想させる。

さて、このミミのアリアを聞き終えたロドルフォはどう思っただろうか。自分の愛の告白に応えてくれたと感じたのだから、彼女を抱きしめてキスをしたい。そう思ってそっと近づこうとしたまさにその時、外から待ちくたびれた仲間たちの呼び声が聞こえる。それはそうだ、忘れてくれては困る。5分で仕事を済ますと言って待たせてあるのにすでに 12~13 分が経過しているのだ。寒いし腹も減った。



「Lumaca! かたつむり! Poetucolo! へぼ詩人! Accidenti al pigro! くたばれ怠け者!」などと、なかなか楽しい野次をとばす。マルチェッロが少し真面目に「Che te ne fai li solo? ひとりでそこで何をしているんだ?」と怒鳴る。部屋は暗いのに仕事? しかも窓辺に立ったロドルフォが仲間たちと大声で会話していた時、部屋の奥から「誰なの?」とミミが尋ねるので、彼は振り返って「友達なんだ」と答えている。その様子を見たマルチェッロは、ん? 他に誰がいるのか? と思ったのだ。ロドルフォが嬉しそうに「Non son solo. Siamo in due. ひとりじゃない。二人なんだ」とマルチェッロに答え、ミミも窓の方に近づいたので、仲間たちはロドルフォが恋人を見つけたことを悟り、二人を残して嬉しそうにカフェ・モミュスへ出かけて行く。

No.27

The musical score for No. 27 consists of two systems. The first system features vocal parts for MIMI and R, and piano accompaniment. MIMI's line starts with the lyrics "- mor!....." and continues with "No, per pie-tà! *dolcissimo*". R's line starts with "- mor!....." and continues with "Sei". The piano accompaniment includes dynamic markings like *ppp* and *m.f.*, and performance instructions such as "SEMPRE PIÙ SOSTENUTO" and "(svicolandosi)". The second system continues the vocal parts with MIMI singing "Và. spet-tan gli a - mi - ci..." and R singing "mi - a!....." and "Già mi man-di". The piano accompaniment continues with *ppp* dynamics and includes asterisks marking specific points in the music.

譜例 No.27 ④の1小節目でロドルフォはミミにキスをする。そのまま抱き合うことになるのをミミは拒み、すぐに深い関係になるのではなくロドルフォの友達も一緒にクリスマスイヴの夜を過ごしたいと提案する。そうして二人で出かけるのだが最後にステージ裏で「Amor!」と二人で high C を出さなければならない。プッチーニは歌手の都合で半音下げるならば④の4小節目からにするよう指定している。

## 第Ⅱ幕

♩=112、in 1 の指揮で始まる冒頭の音楽はⅠ幕でショナールのくんだりで紹介済みである。ここで初めて合唱が登場するが中途半端な人数だと格好がつかない。自前のオペラ団の合唱団員だけでは足りなくて、他で指導している市民合唱団に応援を頼んだ。普段は宗教曲や法人作品の合唱曲などを歌っている合唱団なので、このⅡ幕で演技をしながら歌えるようになるのは大変な苦勞であった。

ひとしきり人々が歌いそれが一段落すると、ショナール、コルリーネ、ミミとロドルフォ、マルチェッロがそれぞれ買い物などを楽しみながらそぞろ歩いている。原作のミミは贅沢好きで浪費癖があるが、この場面ではほんの少しその片鱗が垣間見える。高価そうな品に目移りするが、結局バラ色のボンネットのみをロドルフォに買ってもらう。やがて彼らはカフェ・モミュスで合流し、ロドルフォは仲間たちにミミを紹介する。

### No.28

The musical score for No. 28 consists of three staves. The top staff is for 'Le Mamme' (Soprano), starting with the tempo marking 'Risoluto' and the dynamic 'f deciso'. It includes the lyrics 'Ah! raz - ze di fur -'. The middle staff is for 'Sch.' (Soprano) with the lyrics 'A - ra - go - sta sen - za.....'. The bottom staff is for 'Col.' (Bass) with the lyrics 'ta - vo - la!' and 'cro - sta!'. The score also features a tempo change to 'Piu mosso con stancio' and a tempo marking of ♩ = 144.

譜例 No.28 ショナールの「Aragosta senza crosta!殻をむいた伊勢エビ!」と注文する場面で、ヴォーカルスコアでは問題ないのだが指揮用のオーケストラスコアでは「crosta!」だけコルリーネが歌うことになっている。最初はミスプリントなのかと思ったがルイジ・リッチによると、これはどうやらプッチーニによる意図的な遊び半分の話風のフレーズで、「crosta!」はやはりコルリーネが歌うのが正しいということだ。しかし、そのように演奏しているのを聴いたこともないし、市販されている CD にも見付からない。今日では慣習的に全部ショナールに歌わせているようだ。機会があれば、プッチーニの指示通り対話風にコルリーネに歌ってはと提案してみようか・・・

マルチェッロは、仲良しげな新しい恋人たちの会話にだんだん機嫌が悪くなっていく。その様子に気づいたショナールとコルリーネが、気を遣って話題を変え愉快地乾杯しようと言ってくれたので、マルチェッロも気を取り直そうとする。しかしまさにそのタイミングで、マルチェッロの元恋人ムゼッタが男連れで派手に登場したので、彼の機嫌は再び急降下する。

No.29

ALL: MODERATO ♩ = 132

譜例 No.29 ムゼッタの登場の音楽は8分の9拍子でホルンとティンパニと低弦部で3、6、9拍目に力強くアタック音が入る。このスケルツォ的でリズムミクなテーマは非常におもしろい。

No.30

譜例 No.30 ムゼッタの「Voglio fare il mio piacere」はヴォーカルスコアには何も書いていないが、オーケストラスコアには *spigliato*(のびのびと)の指示があり、少し遅く歌われることが多い。

No.31

ムゼッタのアリアの最後「senti morir」の16分音符は勢いが必要である。

No.32

(stringendosi a Rodolfo)  
 MIMI T'a - - mo!  
 ROD. (cingendo Mimi alla vita) p  
 Mi - mi!  
 S. (mf) (Quelbra - vaccio a mo - menti cede -  
 C. (Essa è bella io non son cie - co,  
 f poco rall:.....

譜例 No.32- 3小節目は2拍目まで少し *riten.* で3拍目は *a tempo*。

No.33

MUS. *sostenendo*  
 par..... non..... sec - , car,..... non sec.  
 MIMI ..... ah!..... ah!..... mi..... muo - ve, mi muo - ve a pie -  
 R. .... quel..... che..... le of - fe - se ven - di - car non  
 S. tu, la tua scienza bron - to - lo - na mande - re - sti a Bel - ze -  
 C. cie - co ma..... piaccionmi assai più u - na pipa e un te - sto  
 f sostenendo p

譜例 No.33-1 小節目も1拍目と2拍目は2つに分けて振り、3拍目は *a tempo* で演奏する。

ムゼッタはマルチェッロが自分のことをまだ愛していると確信すると、突然足の痛みを訴え出し、連れの男アルチンドロに新しい靴を買ってくるように言って追い払う。めでたく復縁した二人は熱く抱擁する。

(Musetta e Marcello si abbracciano con grande entusiasmo)

MUS. *MENO*  
Mar - cel - lo!

MAR. *MENO*  
Si - re - na!

*allarg.* *MENO*  
*pp dolcissimo*

ROD. (con sorpresa, alzandosi assieme a Mimi) *p*  
II

SCHAU. *p* *3* *3* (un cameriere porta il conto) (con sorpresa) *p*  
Siamo all'ultima sce.na! II

COLL. (con sorpresa) *p*  
II

譜例 No.34-3 小節目マルチェッロの「Sirena!」の meno は後に Snare Drum が入ってきたときにテンポが変わってしまうと都合が悪いので、♩=132、つまり♪=66 で演奏しなければならない。

それからモミュスの給仕が勘定書をシヨナルに渡す。もしかすると彼らは普段から勘定を踏み倒すことが多かったので、店の方も逃すまいと待ち構えていたのかもしれない。4小節目シヨナルが「Siamo all'ultima scena! 芝居の大詰めで！」と叫んだタイミングで、給仕に意味合いを逆手に取られてスッと

渡されてしまうのだ。コルリーネとロドルフォ、それに面白いことにミミまで驚いて一斉に立ち上がり、勘定？見れば結構高い。ロドルフォはミミにプレゼントしているし、ショナールはパイプと楽器（ホルン？）を、コルリーネは外套を買ってしまった。マルチェッロはいつの間に何に使ったのかは分からないが「**Siamo all'asciutto!** みんなすっからかんだよ！」と叫ぶ。狼狽する彼らの様子を見ていたムゼッタが機転を利かせて、連れの男が戻って来たら全部支払うからと給仕に告げ、勘定書をアルチンドロにつける。仲間たちは大喜びでアルチンドロが戻ってくる前に大急ぎで人混みに消える。

### 第三幕

何故かオーケストラスコアには無いのだが、ヴォーカルスコアには台本作家の前書きがある。それによってミミとロドルフォの同棲生活がどのようなものであったか想像できる。「ロドルフォはミミに対して嫉妬深く怒りっぽくヒステリックな愛情を持った。彼らは何度も別れてしまうところだった。二人は喧嘩の嵐の最中に双方が一致して相手を愛し抱き合い、夜の新鮮なオアシスに息をつき、しかし翌日の夜明けには突然喧嘩が始まるという、楽しい日と最悪の日を交互に暮らしながら別れのときを待ち続けていた」

No.35

The image shows a musical score for No. 35. It consists of three systems of music. The first system includes a vocal line and a piano accompaniment. The tempo is marked as quarter note = 112, and the overall tempo is *AND.<sup>te</sup> MOSSO*. The piano part starts with a forte (*ff*) dynamic, followed by a sudden change to piano (*subito pp*), and then continues with a pianissimo (*pp*) dynamic. The vocal line has the instruction *(si alza la tela)* above it. The second and third systems continue the piano accompaniment with various dynamics and articulations.

静けさをいきなり切り裂くように **d-moll** 十六分音符の弱起と八分音符が **ff** で演奏され幕が開く。  
**subito pp** でチェロの A と D の低音のトレモロの上にフルートとハーブの連続した 5 度音程が続く。

第 2 幕の終わりからちょうど 2 ヶ月経った 2 月末の極寒の夜明け、朝もやと霧が立ちこめ雪もちらついている。この音楽には前書きにあったミミとロドルフォのそれぞれを連想させる孤独や暗さ、神秘的な無限の悲しみを感じる。しばらくして掃除夫の男たちの叫び声が響く。「**Ohe la, le guardie! Aprite!** おーい、監視員さんたち！開けてくれ！」寒い中足踏みしながら何度か大声で叫ぶと **Doganiere** 税関吏が門を開けて男たちを通してまた閉じる。この物寂しさとは対照的に灯りのついたキャバレーからは酔っ払いの歌やグラスをぶつける音、そしてムゼッタの歌声が聞こえる。

MUSETTA (dal Cabaré)

Ah!.....

- mor, tro - vò l'a - mor!

*pp armonioso*

MUS ..... Se nel bicchie - re

MUS ..... *poco rall.* sta il piacer..... in gio - vin bocca sta l'amor!...

*poco rall.*

II幕で歌われたムゼッタのワルツのヴォカリーゼであるのに、とても優しく包まれるようなメロディーである。

No.37

6 LATTIVENDOLE  
Sop!

(interno) *gritato* *p*

Hopp\_là! Hopp\_là!

DOGANIERE  
(dal Corpo di Guardia esce il sergente dei doganieri, il quale ordina di aprire la barriera)

Son già le latti\_vendole!

(tutinnio di campanelli di carrettieri)

*molto* *ff* *subito pp* *pp*

譜例 No.37 の 1~2 小節目に冒頭と同じ *ff* が今度は h-moll で現れ、牛乳売りの女たちや農夫たちがやって来ては通り過ぎる。

No.38

(Mimi dalla rue d'Enfer: entra guardando attentamente intorno cercando di riconoscere la località, ma giunta al primo platano la coglie un violento accesso di tosse: poi rimessasi e veduto il sergente, gli si avvicina:)

(6)

*LENTO MOLTO* ♩ = ♪

*espressivo*

*rall...* *pp*

そして譜例 No.38 ⑥でミミが登場する。I 幕のアリアのメロディーが悲しく流れる。キャバレーから出てきた女店員にマルチェッロを呼び出すよう頼む。出てきたマルチェッロは自分を訪ねてきたのが誰なのかが分かって驚いて、しかし嬉しい気持ちで「Mimi!」しばらくぶりに会ったミミに寒いから店の中へ入るよう勧めるが、そこにロドルフォがいることを知った彼女は強く拒否する。「O buon Marcello, aiuto! おお心優しいマルチェッロ、助けて!」ここではじめてマルチェッロはただならぬ気配を感じる。「ロドルフォは私を愛している。なのに私を避けるの。私のロドルフォは嫉妬に苦しんでいる。夜、私が眠ったふりをしていると彼は私がどんな夢を見ているのかじっと見ているのを感じるの」



No.39

MIMI

*ritenuto*

mi - re e in me lo sento fi - so..... spiarmi i sogni in

*ritenuto*

MIMI

vi - so. Mi gri\_da ad o\_gni i -

*Sostenendo molto*

*Sostenendo molto*

*ppp*

譜例 No.39 - 1小節目の3拍目は rit. 2小節目 a tempo、その3拍目に再び rit. して3小節目は a tempo、4小節目からの毎小節の最初の8分休符はミミの苦しい息づかいのようだ。「どんなときでも私に叫ぶわ。君は僕に似合わない、他の恋人と仲良くしろよ。ああそれは彼の鬱憤の言葉なの、それは分かっているの」黙って聞いていたマルチェッロが口を開く。「君たちのようになったときは、もう一緒に暮らせないものだよ」「そうよね、私たち別れたほうがいいわね。助けてちょうだい。私たち、何度もやってみただけどだめだった。あなたのいいと思うようにしてちょうだい」この間、なんとマルチェッロは「僕はムゼッタに気兼ねしないし彼女も僕に気兼ねをしない。だって僕らは互いに楽しく愛し合っている…歌声と笑い声とそこには変わらない愛情の花があるんだ！」と自分たちの恋はうまくいっている話をしている。しかし大切な友人の恋人が命をかけた愛の苦しみの話をしているのに自分ののろけ話をするはずがない。彼はミミとロドルフォとの愛の悲しさに心を打たれ、自分もムゼッタとの愛に疑問を感じたのだ。いや、以前から何かしら違和感や苛立ちを覚えていたのだが、ミミの話を聞くうちに自分たちの愛が本物ではないのかもしれない気がついたのだ。マルチェッロ「わかった。彼を起こそう」ミミ「眠っているの？」ミミは心を傷つけられボロボロになり不安と苦しみに壊れてしまいそうなのをやっこらえてここまで来たのに、ロドルフォは呑気に寝ているのだろうか。マルチェッロ「彼は1時間ほど前にやってきて長椅子の上でウトウトしているんだ。見てごらん」ミミは愛する人を見つけるため近寄ろうとするがひどく咳き込む。マルチェッロ「ひどい咳だね」ミミ「昨日からひどくて。ゆうべ彼は『もう終わりだ』って言いながら私から逃げたわ。それで今度は私が夜明けに家を出てここまで来たの」マルチェッロはキ

キャバレーの中のロドルフォが起きて自分を捜しているのを見て、ミミに家へ帰るよう促す。ミミは帰ったふりをして物陰に隠れて様子をうかがう。

ロドルフォはキャバレーから出てきてマルチェッロに、ミミとは別れるときっぱり言う。もうあの女には飽きたと。マルチェッロは気紛れで意地っ張りで移り気な友人を咎める言葉をロドルフォに投げつける。しかし本当にマルチェッロは彼をそんな男だとみているのだろうか。私はもう少し二人の友情を信じたい。きっと何か深い理由があるはずだ。ロドルフォが本心を言わないからマルチェッロは何とかして言わせようと厳しく詰め寄っているに違いない。そしてついにロドルフォは本心を吐露し始める。そしてここからはもう涙無しでは聞くことができない。ロドルフォ「この世界のどんなものよりミミを愛している。でも心配なんだ。彼女は重い病にかかっている。毎日ますます衰えていく。あの哀れな可愛い人はもうだめなんだよ」

No.40

*LENTO TRISTE* ♩ = 48

*LENTO TRISTE* ♩ = 48

(21) *pp*

*mi* è tan - to ma - la - ta! O - gni di più de -

*MIMI* *molto rit.:.....*  
(fra sé) *allarg.:.....* *corta* Che vuol di - re?

*cli - na. La pove-ra piccina è con - dan - na - ta!*  
(temendo che Mimi possa udire, tenta di allontanare Rodolfo)

*MAR.* Mi - mi!?

*molto rit.:.....*

*p con la massima espressione*

U - na ter - ribil tos - se l'e - sil pet - to le scu - te.....

*Sostenuto molto* ♩ = 40

*ppp lentissimo*

譜例 NO.40 ㉑からの *Lento triste* (遅く悲しく)は葬送行進曲のようだ。6小節目のマルチェッロが言う「Mimi!?!」は、物陰に隠れているミミに気づいて出た言葉のように時々演じられるが、その前にマルチェッロは話がミミに聞こえないか心配し、ロドルフォを遠ざけようとするというト書きがあるので、彼は最初からミミが隠れていることを知っているのだ。「ミミが重い病気にかかっているのか?!」という気持ちで言うのが自然だ。

5小節目と6小節目は in 4 で遅く。ここからの *Sostenuto molto* は前の *Lento triste* よりさらに遅く。4分音符の小節と3連符の小節が交互に続く。2拍目の3連符は2つ目の音がいつも付点で長くなり、心から愛するミミが、死に向かっているのをどうにもしてやれない、悲しい思いでむせび泣きしゃくりあげながら話すロドルフォの息づかいのようである。物陰で聞いていたミミもすすり泣き、そして激しい咳のためにロドルフォに気づかれてしまう。

#### No.41

LO STESSO MOVIMENTO

R Fa - cile alla pa - u - ra per nul - la io m'ar - ro -

LO STESSO MOVIMENTO

*p animando*

MIMI

LO STESSO MOVIMENTO

No, quel tan - fo mi

(vuol farla entrare nel *Cabarié*)

R - ve! - lo. Vien là nel te - - por!

LO STESSO MOVIMENTO

(24) *fp con agitazione*

譜例 No.41 ロドルフォが慌てて涙を拭い何事も無かったかのように取り繕う音楽は、I幕のミミのアリアの「mi chiamano Mimi」のメロディーだが *Lo stesso movimento* でかなり速く、ミミを前にしてロドルフォが狼狽する音楽に聞こえるから不思議だ。ロドルフォはキャバレーの中にミミを連れて行って休ませようとするが、あの臭いは自分の息を詰まらせるからとミミは強く拒否する。㉑のこの音楽はすぐ後のミミのアリアの中で使われる。

ロドルフォの話の聞き手だったマルチェッロは、二人の深い愛情と悲しい運命に巻き込まれ、どうすることも出来ずただ立ち尽くしている。その時、店の中からムゼッタの甲高い笑い声が聞こえてくる。マルチェッロはこの場にそぐわない無神経な笑い声と、日頃から感じていた自分たちの愛への不信感もあって店に勢いよく駆け込んでいくのだが、ムゼッタが店でこのように笑うのは別に特別ではなく日常茶飯事だったはずである。もしかしたら彼はこれ以上ここで二人の様子を見ているのが辛いという気持ちもあって中に入ったのかもしれない。

No.42

LENTO MOLTO ♩ = 66

MIMI

Donde lie - ta u - sci al tuo gridò d'a.

R

Va - i?

LENTO MOLTO ♩ = 66 dolce

(26)

*pp*

*poco rit.:..... ANDANTINO*

MIMI

- mo - re, tor - na so - la Mi - - mi al so - li - ta - rio

*ANDANTINO espressivo*

*poco rit.:.....*

*mf agitando un poco p*

MIMI

ni - do. Ri - tor - na un'altra vol - - ta a in.

*p cres.*

ミミはもはや運命を、悲しい別れを甘んじて受け入れ、ここで譜例 No.42 二つ目のアリア《告別の歌》が歌われる。また「mi chiamano Mimi」の、今度は I 幕と同じテンポで回想させながら「あなたの愛の呼びかけに喜んで出てきたあの人気のない家にひとりで戻るわ」7小節目に譜例 No.41 ㉔の時のメロディーが *Andantino* ながらクラリネットの *agitando un poco* で演奏され、ミミの「もう一度偽物の花を刺繍しに戻るわ」と言いながらも本当は別れたくない本心が表現される。しかしすぐに落ち着きを取り戻し I 幕アリアの楽しい思い出がくり返し軽やかな十六分音符のスタッカートで現れる。「Addio, senza rancor さようなら、恨むこともないわ」泣き伏すロドルフォに優しく「Ascolta…聞いてちょうだい」自分の少ない持ち物をまとめておいてと頼む。

No.43

譜例 No.43 ㉔の2小節前の4分の5拍子は3拍目と4拍目で *rit.*、5拍目は *a tempo*、2幕のムゼッタを思い出す。そしてクリスマスイヴに買ってもらったバラ色のボンネットが枕の下にあるから、もしよかったら愛の思い出に取っておいてくださいと言って締めくくる。ロドルフォは胸が締めつけられる思いである。

泣き伏していたロドルフォも譜例 No.44 ㉔でようやく別離を受け入れようとする。ロドルフォ「Dunque è proprio finite! Te ne vai, la mia piccina. Addio sogni d'amor それでは本当におしまいなんだね、君はこれで行ってしまう、僕の可愛い人、さようなら愛の夢よ」

No.44

MIMI *rall.* *(corta)* *a tempo*  
 ROD. addio senza ran.cor.... *dolcemente*  
*rall. col canto* *(corta)* *a tempo* *(29)* Dunque è proprio fi - ni - ta!..... Te ne  
 R vai, te ne vai, la mia pic - ci - na. *rall.* Ad - di - o sogni d'a -  
*col canto*

No.45

MIMI *AND<sup>te</sup> CON MOTO*  $\text{♩} = 92$  *ritenendo . . . . .* *dolcis.*  
 Ad - di - o dol - ce sve -  
 R - mor!..  
 (30) *AND<sup>te</sup> CON MOTO*  $\text{♩} = 92$  *pp* *rit. col canto . . . . .*  
 MIMI *a tempo*  
 - glia - re al - la mat - ti - nal.....  
 R Ad.  
 MIMI *(sorridente)*  
 Ad - dio rabbuffi e ge - lo - si - e!..  
 R *di - o sognan - te vi - ta.....* *che un tuosor - ri - so ac.*

譜例 No.45 ㊸から始まる美しいメロディーはプッチーニがまだ学生の頃作曲したヴァイオリンとピアノの為に書いた《Omaggio a Paganini パガニーニへの贈呈》そのものであり、これはまた《Sole e Amore 太陽と愛》という歌曲にそっくり移され、雑誌『Paganini』に献呈されている。No.45-1 小節目は *Andante con moto*  $\text{♩}=92$ 、3 小節目と 4 小節目は *ritenendo in 6* で。5 小節目は *a tempo*  $\text{♩}=92$ 、7 小節目は *poco riten.*  $\text{♩}=66$ 、9 小節目は *in 3* のまま *poco rit.*、

No.46

MIMI  
Ad - - dio so -

R  
..que - tal.....

続く No.46 - 1 小節目は *a tempo*  $\text{♩}=92$ 、3 小節目から再び *poco riten.*  $\text{♩}=66$ 、No.47 - 3 小節目は *rit.*

No.47

R  
ch'io da ve - ro po - e - - ta..... ri - ma - vo con ca -

*pp dolce*

ミミ「楽しい朝の目覚めもさようなら」ロドルフォ「夢のような生活もさようなら」ミミ「さようなら叱責や嫉妬」ロドルフォ「それをおまえの微笑みが和らげてくれたんだ」ミミ「疑いもさようなら」ロドルフォ「接吻も」ミミ「辛い苦しい思いも」ロドルフォ「それを僕は本当の詩人らしく愛撫で韻を踏んであげたのだ」二人はこの2ヶ月の間、本当に楽しく本当に辛くそして愛し合っていたのだ。

212

MIMI *con anima*  
*p* So - li d'in - ver - - no.....

R  
 - rez - - ze! (31) So - - li.....

*poco allarg.*

MIMI *affrett. un poco*  
 ..... è co - sa da..... mo - ri - - re! So - li!

R  
 ..... e co - sa da..... mo - ri - - re!

*f* *poco allarg.* *affrett. un poco*

MIMI *a tempo* *poco allarg.* *poco affrett. rall.* *espressivo*  
 Men - tre a prima - ve - ra c'è compagno il sol, c'è compagno il

R *a tempo* *poco allarg.* *poco affrett. rall.* *espressivo*  
 Men - tre a prima - ve - ra c'è compagno il sol!

*f* *a tempo* *poco affrett. rall.* *espressivo*

譜例 No.48 ㊸ 1小節前は♩=66に戻り、その3拍目で再び rit.㊸から poco riten. ♩=66、㊸ 3小節目は in 6、3拍目の3連符の2番目の音はフェルマータ、㊸ 6小節目から3小節間 in 6。6小節目の2拍目裏はフェルマータ、7小節1拍目少し速く、ブレスして2拍目から rit.



No.49

MIMI: *soll!.....* (di dentro)

MUS.: *f* *Che vuoi dir!* *che vuoi*

MAR.: *f concitato* *Che face.vi. Che di.ce.vi* *presso al fuoco a quel signore?*

*a tempo*  
*p*

MIMI: *f* *Niuno è solo l'a.pril .....*

MUS.: *(esce correndo)* *dir!* *(fermandosi sulla porta del Cabaret rivolto a Musetta)*

MAR.: *Al mio venire ha! muta.to di co.*

*f ritenuto molto...* *p* *a tempo*

この美しい二重唱は譜例 No.49-1 小節目から、キャバレーの中から聞こえてくるマルチェッロとムゼッタの喧嘩を巻き込んで四重唱へと展開していく。1小節目は *a tempo* で  $J=92$ 、3小節目と4小節目は *in 6* で *riten.*、5小節目は *a tempo*  $J=92$  で *in 3*。

No.50

(con attitudine di provocazione)

MUS *rit.*  
 Quel signo\_re mi di\_ce - va:..... Ama il ballo si\_gno\_

MAR  
 \_lo\_re.

*pp* *rit.*

譜例 No.50-2 小節目は2拍目と3拍目を分けて2拍目裏 poco tenuto.

ここで二人の会話は少し変化してくる。ミミとロドルフォ「冬に一人ぼっちになるのは死ぬようなものだ、春になれば太陽が仲間になるのに」ミミ「4月に一人ぼっちの人はいないわ」何も冬に別れなくても、春になればもっと楽に別れられるかもと言っているようにもとれる。

No.51

*a tempo*

MIMI  
 E - sce dai

R  
 par - - la coi gigli e le ro - - se.....

MUS  
 - rina? Arros - sendo rispondeva: balle rei sera e mat.

MAR  
 Vana, frivo\_la, ci\_vet - ta!

(32)

*a tempo*  
*p*

譜例 No.51 ㉓の1小節から poco riten. ♩=66、

No.52

MIMI  
ni di un cinquet - tio gen - ti - le.....

MUS  
- ti - na,..... balle - rei sera e mat - ti - na.....

MAR  
Quel discorso asconde mire di so -

MUS  
Voglio piena li - bertà!

MAR  
- neste, io t'acconcio per le

Tempo markings: *poco rit.*, *a tempo*, *colta*, *leggero*, *pp*, *col canto*

譜例 No.52 - 1 小節目は rit. 2 小節目は a tempo で  $\text{♩} = 92$ 、4 小節目は 2 拍目を分けて裏を少しだけフェルマータしてオーボエ、クラリネットを合わせる。マルチェッロの十六分音符を聞きながらその後の Es の音に合わせるように 3 拍目をそと降ろす。適度にフェルマータしたら進み、跳ね上げた裏にオーボエ、クラリネットそしてマルチェッロを入れる。マルチェッロの歌をよく聞くことが肝要だ。

No.53

MIMI Al fio - rir di pri - ma -

R Al fio - rir di pri - ma - ve - - - ra

MUS *f* Chemi canti? Chemi gridi? Chèmi canti? All' al...

MAR feste se ti colgo a incivet - ti - rel.....

MIMI - ve - ra c'è compagno il sol!

R c'è com - pa - gno il sol!.....

MUS - tar non siamo uni - ti.

MAR Bada sotto il mio cap - pel - lo.... non ci stan certi orna -

譜例 No.53 - 1小節目から poco riten. ♩=66、4小節目から a tempo ♩=92

No.54

MUS *f* *rit.* *risata*  
 Io de testo quegli aman.ti..... che la fanno da(ah!ah!ah!)ma ..

MAR  
 - men.ti.....

MIMI  
*a tempo* *dolcissimi* Chiacchieran le fon - ta - ne.

ROD.  
 Chiacchieran le fon - ta - - - ne.....

MUS  
 - ri - ti.....

MAR  
*pp sottovoce*  
 Io non faccio da zimbel\_lo ai no.vizi intrapren.den.ti.

*dolce*  
*p a tempo*

譜例 No.54 - 2 小節目、(何故かヴォーカルスコアには無いのだが) 3 拍目を軽く分けて裏にオーボエ、クラリネットを入れ軽くフェルマータ。ムゼッタの笑い声を待ってプレスをきっかけに進む。3 小節目からは poco riten. ♩=66

MIMI La brezza del - la se - - - ra

R .....La brezza del - la se - - - ra

MUS Fo'all'amor con chi mi pia - ce! non ti gar - -

MAR Vana, fri\_vo\_la. ci\_vetta!

*espressivo*

MIMI bal - sa - - mi sten - - - de.....

R bal - sa - - mi sten - - - de.....

MUS ba?fo'all'amor con chi mi pia - ce!

MAR Ve n'anda\_te? Vi rin\_

(35)

*p espressivo*

譜例 No.55 - 2 小節目の 3 拍目少し rit. 3 小節目は変わらず ♩=66。

*allargando . . . . .*

MIMI ..... sul - le do - glie u - ma - - - ne.

R ..... sul - le do - glie u - ma - - - ne. (ironico)

MUS Mu - set - ta se..... ne va..... sì se ne va! Vi sa - (ironico)

MAR - gra - zio: or..... son ric.co di ve.nu - to. Vi sa -

*allargando . . . . .*

MIMI *molto allarg.: . . . poco affrett.: . . .* *rall: . . .*  
Vuoi che a - spet - tiam la pri - ma vera an -

R *poco affrett.: . . .* Vuoi che a - spet - tiam la pri - ma vera an -

MUS lu - to. Si.gnor ad - - dio vi di - co con pia -

MAR lu - to. Son ser - vo e me ne

*pp poco affrett.: . . . ff . . . molto allarg.: . . . poco affrett.: . . . rall: . . .*

譜例No.56-1小節目はin 6 で3拍目の3連符の2番目はフェルマータ。4小節目と5小節目はin 6、4小節目の2拍目裏はフェルマータ、5小節目1拍目の最初の8分音符の後にブレス。その後少し前に進み、すぐ rit.して3拍目の1つ目の8分音符は tenuto、2つ目はフェルマータ。

ここで驚くような言葉が出る。ミミとロドルフォ「Vuoi che aspettiam la primavera ancor? やっぱり私たちは春を待つことにしようか?」二人はこの場ではまだ別れないことにするのかもしいない。

No.57

MIMI  
-cor?

R  
-cor?

MUS  
-cer! Pit.to.re da bot - te.ga! Rospo!

MAR  
vò! Vi.pera!

(34) a tempo

PIÙ LENTO (avviandosi con Rodolfo)

MIMI  
(gridato) *pp* Sem - pre tua per la

MAR  
stre - gal

PIÙ LENTO

*ppp*

rall:.....

譜例 No.57 ③④の1小節目も in 6 で遅く。2小節目は a tempo ♩=92、4小節目 5小節目は Piu lento ♩ =80 で in 6。5小節目の3拍目 poco stentata (少し遅く)



No.58

MIMI  
 ROD. vi - ta..... Ci lascie -  
 Ci lascie - re - mo

MIMI  
 -remo al la stagion dei fior...  
 R al la stagion dei fior.....

MIMI  
 Vor - rei che e - ter - - no du - ras - se il  
 (cala lentamente il sipario)

*pp* *poco allarg.: . . . . .*

譜例 No.58 - 1 小節目で♩=66 に戻す。

ここから二人は歩きながら舞台から退場していく。ミミ「命の限りずっとあなたのもの」ロドルフォ「僕たち別れるんだね」ミミ「私たちは花の季節に別れることにしましょう」ロドルフォ「花の季節に」ミミ「冬がいつまでも続くといいのに」

No.58 - 2 小節目の 3 拍目から *poco riten.*、3 小節目の 3 拍目から更に *riten.* ♩=58、6 小節目で *a tempo* ♩=66、3 拍目のオーボエの 3 連符を *riten.*、7 小節目は *piu sostenuto* ♩=54、8 小節目の 3 拍目のオーボエ *riten.*、9 小節目より *cala lentamente il sipario* ゆっくりと幕が降ろされる。

No.59

MIMI ver - no! (interno) un poco allarg. Ci la - - sce -

R (interno) Ci la - - sce - (55)

pp f col canto pp

譜例 No.59 ㉔の1小節目の二重唱は *interno* (舞台裏で)と指示されている。

IV幕に入るとミミとロドルフォがすでに別れてしまっていることは明らかである。では二人は一体いつ別れたのであろうか。このIII幕の最後で別れるのか、もう少し一緒にいてから別れるのか意見が分かれるところである。私としてはIII幕終わりの四重唱のあとすぐに別れたとしたいところだが、テキストでは、寒い冬の今ではなく「花の季節に別れましょう」で終わっている。

#### 第IV幕

第IV幕の音楽に入る前にも台本作家の言葉が加えられている。「そのころ仲間たちはやもめ暮らしだった。ムゼッタもミミも有名人ようになっていた。マルチェッロは3、4ヶ月前からムゼッタに会っていなかった。ロドルフォはひとりでミミのことを思い出すことはあっても、彼女の噂を耳に入れることはなかった」。この最終幕における音楽はほとんどI～III幕に出てきたものである。

場面はI幕と同じ屋根裏部屋。ミミとロドルフォが別れてからは皆戻ってきて、またここで4人での生活を送っている。

ここで原作にも触れておこう。原作では前に述べた通り、ショナールが住んでいた部屋を家賃滞納で追い出されるところから物語が始まるのだが、ショナールはその部屋へやってきた次の借家人のマルチェッロと一緒に暮らすことになる。ロドルフォとコルリーネはそれぞれパリの端と端に住んでおり、4人の仲間たちはボエーム生活を送っていた。ある年の4月15日、ロドルフォもまた支払いが滞り自分の部屋を追い出されそうになった時、次の借家人が偶然にも元恋人のミミであり、その日から二人は一緒に暮らし始める。

ひと月経ってロドルフォは自分が「嵐と結婚してしまった」ことに気づく。ミミはロドルフォの持つ詩的な心に似つかわしい性質をした愛くるしい女であり、華奢で弱々しい美しさを持ち、特にいくら仕事をしても女王のような白い手にロドルフォは参っていたのであるが、面倒な時や機嫌の悪い時などにはほとんど野獣のような残忍な顔つきになるし、友人の影響でだんだん贅沢を好むようにもなりロドルフォを悩ませる。

8ヶ月の間、二人は喧嘩をしたり仲直りしたりを繰り返したが、とうとうミミは他の金持ちな男のもとへ去ってしまう。しかしすぐにうまく行かなくなって結局ロドルフォのところへ戻りまた一緒に暮らすようになる。ところがそれも長くは続かず、ミミは以前から自分に執心だった若い子爵の世話になるようになる。

二度目の別れからロドルフォの心はまるで死んでしまったかのようにだったが、同じくムゼッタと別れて傷心だったマルチェッロとまた一緒に暮らし始め、お互いを慰め合う。3～4ヶ月が過ぎてようやく立ち直りかけたクリスマスイヴの夜、突然ミミが訪ねてくる。2ヶ月程前、ロドルフォがミミの為に書いた詩が雑誌に載り、それを見つけたミミは子爵の屋敷を出てひとりで生活を始める。その苦労がもとで重い病気にかかり、家賃も払えなくなって追い出されたところ、ロドルフォたちの部屋に灯りがついているのを見てやってきたという。ミミは一目見て死が近いと分かる程のやつれようだった。ミミも自分に死が近いことを悟っていた。ロドルフォは友人の医学生を頼ってミミを慈善病院に入院させることができたが、ちょっとした行き違いからミミの臨終には立ち会うことが出来ず、ミミはひとり寂しく息を引き取る。

ミミが死んでから1年後、仲間たちはボエム生活を切り上げ、それぞれが自分の芸術の道で成功し出世する。

No.60

(Marcello sta ancora dinanzi al suo cavalletto, come Ro-

do lfo sta seduto al suo tavolo: vorrebbero persuadersi l'un l'altro che lavorano indefessamente, mentre

♩ = 108  
ALL<sup>o</sup> VIVO  
ff (s'alza il sipario) brillante

The image shows a musical score for a piano and voice. The top system includes a vocal line with lyrics in Italian: "(Marcello sta ancora dinanzi al suo cavalletto, come Ro-". Below it is a piano accompaniment. The bottom system continues the piano accompaniment with lyrics: "do lfo sta seduto al suo tavolo: vorrebbero persuadersi l'un l'altro che lavorano indefessamente, mentre". The score includes tempo markings "♩ = 108" and "ALL<sup>o</sup> VIVO", and dynamic markings "ff" and "brillante". There are also performance instructions in parentheses: "(s'alza il sipario)".

IV幕冒頭、このオペラで全体を通して流れている押しの強い鋭く効果的な例のテーマで始まる。Allegro vivo 付点四分音符=108を(②の8小節目まで)維持しなければならない。

No.61

R  
- set - ta! Le dis - si: e il cuor?..... <Non

しかし譜例 No.61- 3 小節目ロドルフォの「e il cuor?」の小節は in tempo でいきにくい。

No.62

R  
(fra sè)  
(Lo.io - la va! Ti ro.di e

MAR  
gu.sto davver!

R  
(ripiglia il lavoro)  
ri.di.)

MAR  
Non batte? Be - ne!

(dipinge a gran colpi di pennello)  
Be - ne!

(1)

pp

ff brillante

譜例 No.62-2小節目(①の3小節前)に入る時に一瞬の間が、①の1小節前マルチェッロの「Non batte?」の前にも少しの間が欲しい。またその後の二人の会話は少し忙しい気がするなど、多少柔軟さが求められる箇所もあるが極力 in tempo を保つよう心がける必要がある。

ロドルフォにもマルチェッロにもインスピレーションがやってこない。二人とも無関心を装いたいがお互いの心に傷を負っていることを知っている。

No.63

ROD. *AND: MOSSO* ♩ = 84  
*dolce*  
 (O Mi - mi tu più non tor - ni, O gior - ni bel - li, pic - co - le  
*pp*

*AND: MOSSO* ♩ = 84  
*p* *pp*

R *appena rall:...*  
 ma - ni, o - do - ro - si ca - pelli... Col - lo di  
 (ripone il nastro ed osserva di nuovo il suo quadro)

MAR. *p*  
 (Io non so come sia che il mio pannel - lo la -  
*dolce*  
*appena rall:.....* *p*

譜例 No.63 - 1 小節目 Andantino mosso は♩=84 とあるが♩=66 の間違いである（その 8 小節前の Andantino a tempo も♩=66 くらいでよい）。もちろん rall.は指示通りである。No.63 - 2 小節目、3 拍目と 4 拍目は rit.、3 小節目は 3 拍目から a tempo、4 小節目は指示通り appena rall.(わずかにだんだん遅く)

No.64

The image shows three systems of musical notation for No. 64. Each system includes a vocal line (MAR) and a piano accompaniment (piano). The first system has a vocal line with lyrics "pin-ge-re mi piace o cie-li o ter-re o invern-i o prima-ve - re," and piano accompaniment with dynamics *mf* and *p*. The second system has a vocal line with lyrics "e - gli mi trac - cia due pupil - le ne - re e u - na boc - ca pro -" and piano accompaniment with dynamics *pp* and *f*. The third system has a vocal line with lyrics "- ca - ce. E n'esce di Mu - setta il viso an - cor..." and piano accompaniment with dynamics *ff* and *mf*. Performance instructions include *rall. molto*, *a tempo*, *passionato*, *poco allarg.*, *stent.*, *Sostenendo*, and *cor tu*.

譜例 No.64-2 小節目は1拍目 2拍目は *rall.*、5小節目は1拍目から分けて2拍目フェルマータ、4拍目 *a tempo*、6小節目の3拍目4拍目は *rall.*、7小節目の1拍目 *a tempo*、3拍目と4拍目分けて *riten.* ④の1小節目 *a tempo*、3拍目から *rall.*

(dal cassetto del tavolo leva la cuffietta di Mimi)

ROD. *f molto sosto* *p* *a tempo*

E..... tu, cuf-fiet-ta lie - - ve che sot - to il guan -

MAR. *f* *p*

E..... n'e-sce di Mu - set - ta il vi - so tut - to

*molto sosto* *a tempo*

R. *trattenuto* *a tempo*

- cial par - ten - do a - sco - se, tut - ta sai la

MAR. *cres. e affrett.*

vez - zi e tut - to..... fro - de. Mu -

*trattenuto* *a tempo*

*PP cres. e affrett.*

R. *f senza rall.*

no - stra fe - li - ci - tà, vien sul mio cuor, sul mio cuor mor - to, ah

MAR. *f senza rall.*

- setta in tan - to go - de e il mio cuor vi - le la chia - -

譜例 No.65 - 1小節目は1拍目から分けて riten.、2拍目裏フェルマータ、3拍目、4拍目 sostenuto、  
2小節目 a tempo、3小節目の3拍目と4拍目は poco riten.、4小節目 a tempo、5小節目 incalzando、  
6小節目の1拍目 a tempo、

No.66

R vien, ah vien sul mi - o cuor; poi - ch'è è mor - to a -  
 MAR - ma, la chia - - ma, ea - spetta il vil mio  
 (pone sul cuore la cuffietta, poi volendo nascondere a Marcello la propria commozione, si vol.  
 -mor....)  
 cuor....)  
*dolcissimo*  
*pp calmo*  
*p rall.*  
*rall. molto*  
 ge a lui e disinvolto gli chiede:) *mosso* *a tempo*  
 R Che ora si - a? E Schau - nard non  
 (rimasto meditabondo, si scuote alle parole di Rodolfo e  
 allegramente gli risponde:)  
 MAR L'o - ra del pranzo di ie - ri. *a tempo*  
*p mosso*

譜例 No.66 - 1小節目の3拍目から rit.、2小節目は in 8 で最初から riten. さらに3拍目から rall. 4拍目裏でフェルマータ、3小節目 calmo は J=60、ヴァイオリンとチェロのソロでオクターヴのユニゾンである。4小節目3拍目4拍目 rall.、5小節目 a tempo、3拍目から rall.、6小節目は in 8 で rall. molto そして morendo。7小節目はオケを切って間。ここで拍手が起こる場合もある。一間あってロドルフォに cue。「Che ora sia? 何時だ?」8小節目 Mosso J=126 マルチェッロとオーケストラ1拍目から。

シヨナルとコルリーネが I 幕のシヨナルのテーマによってパンとニンシを持って入ってくる。こ



ここからは全幕を通して最も明るくにぎやかで楽しい場面である。ショナールとコルリーネの陽気さ、二人が買って来た食べ物の粗末さに対する明るい皮肉と諦め、ガボットやカドリールほかのダンスなどユーモアに溢れている。

No.67

(Rodolfo e Marcello continuano a ballare) (con disprezzo esagerato)  
*quasi a piacere..... a tempo*

**ALLEGRO**

s *(gridato)* Che mo-di da lac - chè. *(offeso)*

c (11) Bestia! Se non er-ro lei m'ol-

**ALLEGRO** *ff* *col canto.....* *pp* *a tempo con agitazione*  
*stacc.*

s *(prende la paletta del camino)* *(parlato)*  
 Pronti. As -

c *(corre al camino ed afferra le molle)*  
 -traggia. Snudi il fer-ro.

s *(mettendosi in posizione per battersi)* *Una battuta vale due delle precedenti*  
 -saggia. Il tuo sangue iovo - glio

*Una battuta vale due delle precedenti* *f*

譜例 No.67 ⑪の4小節目 a tempo は⑫のJ=132 と一致していなければならない。また⑪の12小節目 Una battuta vale due delle precedenti (1小節は前の2小節と等しい) は当然 J=66 となる。

## No.68

(si spalanca l'uscio ed entra Musetta in grande agitazione)

MAR. (scorgendola) Mu-

MUSETTA *ALL<sup>o</sup> MOD<sup>o</sup> AGITATO* (con voce strozzata)

ROP. C'è Mi-mi. C'è Mi-mi che mi segue e che sta ma-le. Nel far le

MAR. (tutti attorniano con viva ansietà Musetta) O-v'è r

-setta!

*ALL<sup>o</sup> MOD<sup>o</sup> AGITATO*

*fff subito pp*

Cassa sola

譜例 No.68 馬鹿騒ぎしている4人のもとへムゼッタが駆け込んできたのをマルチェッロが見つける。同時ににぎやかだったオーケストラが一瞬静まりマルチェッロの「ムゼッタ！」という叫びが聞こえ、次の2拍目にe-mollの和音が八分音符ffで切り裂くように鳴る。ティンパニ、チェロ、コントラバスのppのトレモロが奏される中、動揺したムゼッタの絞り出すような声。「C'e Mimi, c'e Mimi che mi segue e che sta male. ミミがいるの、ミミが私についてきているの、具合が悪いのよ」ロドルフォ「Ov'e? どこだ？」ムゼッタ「Nel far le scale piu non si resse. 階段を上っていてももう立っていられなくなったのよ」ここはトレモロからの3小節目まで素早く先に振ってしまつて1拍目でフェルマータして待つ。ロドルフォの「Ov'e?」を聞いたら静かに2拍目を振り上げ、ムゼッタの「Nel far le」の途中あたりをめがけて次の小節の1拍目を先取りして軽くたたく。

譜例 No.69-1 小節目、ムゼッタの「piu」とオーボエ、ファゴット、ヴィオラソロを2拍目に入れてフェルマータ。次の「non」を聞いて振り上げ先の小節へと進む。No.69-2 小節目から4小節目と5小節目は allargando e crescendo、6小節目は affrettando、7小節目の2拍目は rall. このヴァイオリンは con slancio ed espansione (勢いと激情をもって) ロドルフォのミミに対する絶望的悲しみと自責の念である。

8小節目 Meno molto からの2度の4小節間のトレモロとクレッシェンドとディミヌエンドはミミの最悪の病状との中でロドルフォの名前を呼ぶ悲劇の重大さを感じさせる。ミミ「ロドルフォ！」ロドルフォ「黙って休むんだよ」ミミ「ああ私のロドルフォ！ここにあなたと一緒にいてもいいの？」ロドルフォ「ああ！僕のミミ、いつまでも、いつまでもさ！」

(si vede, per l'uscio aperto, Mimi seduta sul più alto gradino della scala)

MUS. scale più non si resse. (si precipita verso Mimi. Marcello accorre anche lui)

R. Ah!

*ff con slancio ed espansione* *allarg.* *cres.*

SCHAU. (a Colline; ambedue portano innanzi il letto)

Noi accostiamo quel let - tuccio.

*Meno molto* *ff* *affrett.* *cres.* *ff* *p*

MIMI (Musetta accorre col bicchiere dell'acqua, e ne fa bere un sorso a Mimi)

(con grande passione)

ROD. (Rodolfo e Marcello sorreggono Mimi conducendola verso il letto)

Ro - dol - fo!

Là. Da be re. Zitta,-

*ff* *p* *pp*

MIMI (abbraccia Rodolfo)

(adagia Mimi sul letto)

R. O mio Ro - ri - po - sa.

99000

ミミが子爵の息子のところから逃げ出して死にかかっていることを人づてに聞いたムゼッタが、必死に探してようやく体を引きずるようにして通りを歩いているのを見つけたことを皆に話す。ミミは「もうダメだわ、死ぬの！私には分かる…あの人のところまで死にたいわ！きっと私を待っているから連れて行って」とムゼッタに頼んだのだ。

No.70

*AND:<sup>te</sup> MESTO*

MUS *vi - ta. Do - ve stia? Cer - ca, cerca... la veggio passar per coperta, poi con grandi cure le accomoda il guanciale sotto la testa)*

R

*AND:<sup>te</sup> MESTO*  
(14)  
*pp*

オーケストラは譜例 No.70 ⑭から I 幕のミミのアリアのメロディを演奏している。

No.71

MIMI

MUS *Mi sen - to assai me - glio.....*  
(Musetta si porta a maggiore distanza da Mimi)  
*- spetta... M'accompa - gni, Mu -*

MAR (a Musetta perche abbassi la voce)  
*Sst*

(15)

MIMI *rall:..... a tempo*  
*la - scia chio guar - di in - tor - no.*

MUS *- set.ta?..* *a tempo, ma sostenendo* *dolcissimo*  
*pp*

*rall:.....*

譜例 No.71 ⑮からミミはそのメロディを歌う。「とても気分がよくなったわ。周りを見せてちょうだい」そして穏やかに微笑んで「ああここはなんて居心地が良いのでしょうか、生き返るようだわ」ここからはロドルフォも加わって同じ旋律を歌う。ミミ「またここで命を感じるわ、もうあなたは私と離れないわね」ロドルフォ「僕の大事な口がもう一度話しかけているのだね」

⑮の3小節目は *rall.* で2拍目と4拍目に少しフェルマータ

## No.72

MIMI  
la - sci più!

R  
par - li!

MUS  
Non caf.fè? Non vi.no? (con grande sconforto)

MAR  
SCHAU. (osserva cautamente Mimi) Nulla! Ah mi - se.ria. (tristamente a Colline traendolo in disparte)

COLL.  
Fra mezz'ora è morta.  
Nulla! (corta) molto rit.:.....

MIMI  
Ho tan - to fred - do! Se avessi un manicot - to!

MIMI  
Queste mie ma - ni ri - scal - da - re non si po.tra - no

PPP

PPPP perendosi

*m.d.*

*rit.*

この二人の歌の裏で仲間たちの会話がある。ムゼッタ「この家には何かある？」マルチェッロ、コルリーネ「何もない」ムゼッタ「コーヒーは？ワインは無いの？」マルチェッロ「何も無い、ああ情けない」ショナールはコルリーネに「半時間で死んでしまうぞ」

譜例 No.72 - 2 小節目は 2 拍目でフェルマータ。ショナールの「Fra…」を聞いたら進み、4 拍目でもう一度フェルマータ、3 小節目は a tempo。6 小節目は 4 拍目に少しだけフェルマータ、

No.73

(Rodolfo prende nelle sue le mani di Mimì, riscaldandogliele)

MIMI *LENTO* (tosse) *mai?*

ROD. *mf* *sostenendo con gran passione* *p*

(16) *Qui, nel - le mi - e! Taci! Il par - lar ti*

*LENTO* *pp* *espress. mf*

(vedendo gli amici di Rodolfo li chiama per nome: essi accorrono premurosi presso di lei)

MIMI *Ho un po'di tos - se! Ci sono av - vezza. Buon*

R *stanca.*

*pp*

MIMI *gior - no Mar - cel - lo, Schaunard, Col - li - ne... buon giorno.*

*p*

譜例 No.73-2 小節目は Lento で *sostendo*(非常にゆっくりと) 8 小節目は 2 拍目でフェルマータ。ハーブを切ってから上げてミミを入れる。

ミミは仲間たちを見て名前を呼ぶ。「こんにちはマルチェッロ、シヨナール、コルリーネ、皆ミミに微笑みかけてくれるのね」そしてマルチェッロに向かって「ムゼッタは本当に良い人よ」マルチェッロ「分かっている、分かっているよ」と言ってムゼッタに手を差し伸べる。

No.74

(facendo cenno a Marcello di appressarsi) *rall.....*

MIMI *ALL<sup>to</sup> MOSSO*  
Parlo pian. Non te - me - re. Marcello, date

R - lar.

*ALL<sup>to</sup> MOSSO*  
(17) *p* *rall.....*

(Schaunard e Colline si allontanano fristamente: Schaunard siede al tavolo, col viso fra le mani: Colline rimane pensieroso)

MIMI *ANDANTE* *poco rall.....*  
retta: è assai buona Mu\_setta.

MAR. (porge la mano a Musetta) *poco rall.....*  
Lo so... lo so.

*ANDANTE* *pp* *string.*

譜例 No.74 ⑰の 1 小節目はムゼッタのテンポで♩=104、2 小節目は 3 拍目少しフェルマータ。ミミの「date retta」に合わせてクラリネットとファゴットを入れる。6 小節目は *stringendo*。

手が冷たいというミミのためにムゼッタとマルチェッロはマフを取りに、そして薬を買って医者呼びに行くために出かける。コルリーネはお金のために自分の外套を売ろうという短いアリアを歌う。

No.75

*ALL<sup>to</sup> MOD<sup>to</sup> e TRISTE* ♩ = 63  
(con commozione crescente)

*p*

(19) Vec - chia zimar - ra, sen - ti, io resto al pian, tu a -

*ALL<sup>to</sup> MOD<sup>to</sup> e TRISTE* ♩ = 63

*pp staccatissimo*

*poco rit.....*

*a tempo*

- scen - dere il sacro monte or de - vi..... Le mie gra - zie ri -

*a tempo*

*p*

- ce - vi. Mai non cur - va - sti il lo - goro dorso ai

譜例 No.75 ⑱の1小節目 Allegretto moderato e triste ♩=63 は間違いで、Andante triste ♩=88 in 4。6小節目は un poco rit. 7小節目 a tempo。

No.76

*a tempo*

( fatto un involto del pastrano se lo pone sotto il braccio e s'avvia: ma vedendo Schaunard si avvicina a lui, gli batte una spalla dicendogli tristemente)

*a tempo*

- dio. Schaunard,

*mf*

アリアの後奏は♩=63で。アリアを歌い終わったコルリーネは、ミミとロドルフォを二人きりにしてやれとショナールに言い残して出て行く。



No.77

*MENO* (Schaunard alza il capo)

c  
ognuno per di - versa via mettiamo in - sie - me due at - ti di pie -

*MENO*

(additando il pastrano) *ANDANTINO* (Schaunard si leva in piedi)

c  
- tà; io...questo! E tu... lasciati so - li là!..

*ANDANTINO*

*p* *pp* *poco affrett.* *pp dolce*

譜例 No.76 コルリーネの「Shaunard,」の後、No.77 のMenoに入る前ほんの少し間をあける。9小節目のAndantinoに入る前はrall. ショナールは同意して表に出る。

No.78

*AND<sup>no</sup> MOSSO*  
(20) (Schaunard guarda intorno - e per giustificare la sua partenza prende la bottiglia dell' acqua e Calmo

*p*

scende dietro Colline chiudendo con precauzione l'uscio)

*cres. e affrett.* *pp*

譜例 No.78 ⑳の6小節目と7小節目はincalzando、9小節目はrall.10小節目 a tempo sostenuto ↓ =63。

⑳の10小節目、ロドルフォは仲間たちがミミと自分のために気を遣ってくれる優しさ感謝し自分の無力さに唇をかむ思いだ。

No.79

(Mimi apre gli occhi, vede che sono tutti partiti ed al-  
 (21) *pp* *dolciss.*  
*PIÙ SOSTENUTO* *cres.*

*rall.*  
 \_lunga la mano verso Rodolfo, che gliela bacia amorosamente)  
*pp*

譜例 No.79 - 1小節目、2小節目は *rall.*

㉑の少し前にミミは目を開けロドルフォの方に両手を伸ばす㉑でロドルフォはふとミミの方を振り返り、それに気づき駆け寄って抱きしめる。㉑2小節目の1拍目の八分音符はしっかり音を立てて *f* で、1拍目2拍目は *riten.* 3拍目は *a tempo*。(次の *Andante calmo* は  $\text{♩} = 50$ )

ミミ「みんな行ってしまったの？眠ったふりをしてたのよ。何故ならあなたと二人だけになりたかったから。話したいことがたくさんあるわ。それともたった一つのだけれど海のように大きくて深く限らないの…あなたは私の愛で私の命のすべてなの」ロドルフォ「ああミミ、僕の美しいミミ」「私はまだ美しい？」「日の出のように美しいよ」「あなたは間違ってるわ、夕日のように美しいと言うべきなのよ」

No.80

(mette le braccia al collo di Rodolfo)  
*ron espansione* *dolcissimo*  
 MIMI  
 \_ni - ta..... Sei il mio a...mor..... e tut - ta la mia vi - ta!...Sei il mio a...  
*f* *p poco rit.*

譜例 No.80 - 1小節目の4拍目から2小節目4拍目まで分けて *in 8*、3小節目の1拍目の二分音符は四分音符に、3拍目の四分音符は2拍目の二分音符にする。

No.81

MIMI  
R  
poco rit: ...  
p  
Son bel-la an -  
- mi, mia bel - la Mi - mi.  
poco rit: ...  
p

譜例 No.81 - 1小節目の4拍目は ritén.

No.82

MIMI  
Lo stesso movimento  
fron-to. Vo-le-vi dir..... bel-la co-me un tra -  
poco rall:.....  
PPP un poco animando  
poco rall:.....

譜例 No.82 - 2小節目の2拍目 Vo-le-vi の-le は portando して-vi につなぐ。

ミミは初めてこの部屋でロドルフォに出会った夜のことを思い出す。ミミ「皆は私をミミと呼びます、何故だか知りませんが…」ロドルフォ「ツバメが巣に戻ってさえずっているんだ」そうしてロドルフォはボンネットをミミに差し出す。「私のボンネットだわ！」ミミはそばにロドルフォを座らせ、頭を彼の胸にもたせかけたまま「あなたは覚えてる？私がそこに初めて入ってきた時のことを」「もちろんさ」「灯りが消えてしまったわね」「君はとても困って、さらに鍵をなくしたんだ」「そしてあなたは手探りで探し始めたわ」「探した…探したね…」

No.83

MIMI  
R  
ril:..... a tempo  
graziosamente  
Mio bel si-gno - ri - no pos - so ben  
cer - ca...  
(25)  
pp ril:..... a tempo

「私の可愛い坊ちゃん、今だから言えるけどあなたはとても早くみつけちゃったわね」「僕は運命を手助けしてやったんだ」「暗かった、私が赤くなったのが見えなかった」そしてあの晩ロドルフォが言った言葉をミミが弱々しくつぶやく。「なんて冷たい可愛い手、僕に暖めさせて下さい…」暗かったわ、そしてあなたは私の手を取った…」ミミは呼吸困難の発作に襲われ、頭を落としてぐったりする。

譜例 No.83 ㊦の1小節目は in 4 で rit. 2 拍目裏はフェルマータ。

No.84

zione e lascia ricadere il capo, sfnita) (spaventato la sorregge)  
 ROD. ALL.º MOD.º = 120 quasi a piacere  
 ALL.º MOD.º = 120 Oh Dio! Mi -  
 fp > cres. f col canto.....

譜例 No.84 - 3 小節目は poco riten.

ロドルフォ「大変だ、ミミ！」そこへちょうどショナールが帰ってくる。

No.85

(apre gli occhi e sorride per rassicurare rodolfo e Snaunard)  
 MIMI rall. molto AND.º CON MOTO  
 quasi a piacere Nul - la... Sto be - ne. Si,  
 R (la adagða sul cuscino)  
 AND.º CON MOTO  
 espressivo Zit - ta per ca - ri - tà. rit:.....  
 MIMI poco rall:.....  
 si, per.do.na.Or sa.ro buo - na... cortu  
 poco rall:..... rall:..... cortu  
 PP cortu

ミミは目を開けて安心させるように微笑む「何でもないの、元気よ」ロドルフォ「黙って、頼むか

ら」ミミ「はいはい、ごめんなさい、もう大丈夫」

譜例 No.85-3 小節目の4拍目は rit. 4小節目 poco rall. 5小節目は a tempo。

No.86

(Musetta e Marcello entrano cautamente: (a Rodolfo)  
Musetta porta un manicotto, Marcello u.  
na boccetta) *pp a piacere*

MUS. *pp a piacere*

ROD. *a piacere*

MAR. *a piacere.....*

(27) ALLEGRETTO *col canto.....*

MIMI

MAR. *a tempo*

MIMI *AND<sup>no</sup> SOST.<sup>to</sup> rall.....*

MUS. *AND<sup>no</sup> SOST.<sup>to</sup> PPP dolriss. col canto*

譜例 No.86-1 小節目に扉が開いてムゼッタとマルチェッロが帰ってくる。ムゼッタはマフ、マルチェッロは小びんを持っている。ムゼッタは「眠っているの？」とロドルフォに尋ねる。亡くなっているのではと心配になる。ロドルフォ「休んでいる」マルチェッロ「医者に会った。来るはずだ、急いでもらった。ここに気付け薬がある」マルチェッロはアルコールランプに火をつける。「誰が話してるの？」と聞くミミのそばに寄ってマフを渡しながら「私よ、ムゼッタよ」子供のようにマフに喜ぶミミ。「まあな

んてきれいで柔らかいの！これでもう手の色が変わることもないわ。暖かさがそれをきれいにしてくれるわ」そしてロドルフォに「これをくれたのはあなたなの？」ムゼッタは素早く「そうよ」少しでもミミを幸せな気分にしてあげたくてムゼッタは優しい嘘をつく。ミミ「あなたって向こう見ずさんね！ありがとう、でも高いんでしょう？」ロドルフォは我慢できずに泣いてしまう。

No.86 ⑳の5小節目は poco riten. 7小節目は♩=66、3拍目から8小節目まで rall.

No.87

ANDTE LENTO

MIMI mor-bido. Non più, non più le mani a li vi-

(28) ANDTE LENTO

pppp

(a Rodolfo) rall: . . . . .

MIMI -di-te Il te-pore... le abbelli-rà... Sei tu che me lo

do-ni? Tu! Spensie-ra-to! Gra-zie. Ma coste-

MUS. (pronta)

Si.

pp

ppp

rit: . . . . .

譜例 No.87 ㉓の1小節目の mor-bido の mor-は portando して bido につなげる。8小節目の rall. 2拍目の付点8分音符は少しフェルマータ、9小節目 a tempo、10小節目 poco riten. 12小節目の2拍目は少しフェルマータ。分けて上げて「ma」を入れる。

No.88

(Rodolfo scoppia in pianto)

MIMI *rall: . . . . .*  
 -rà. Piangi? Sto be.ne... Pianger co\_si per\_

*ppp* *rall: . . . . .*

(mette le mani nel  
 con voce debolissima *rall: . . . . . sempre . . . . . sempre più affievolendosi*  
 MIMI -chè?.... Qui amor... sempre con te!.. Le ma.ni...

*ppp* *pppp* *rall: e morendo sempre . . . . .*

manicotto-poco a poco si assopisce inclinando graziosamente la testa sul manicotto in atto di dormire)  
 MIMI *molto rall: . . . . .*  
 al caldo... e.... dormi.re...

*molto rall: . . . . .* (*lunga pausa*)

譜例 No.88 - 2小節目の2拍目はフェルマータ。その間にフルートとクラリネットを切る。上げて「sto」を入れる。4小節目 *rall.* 5小節目 *a tempo*。

ミミ「泣いているの？私は具合がいいのよ。そんなに泣くのはなぜ？」

No.88 - 5小節目からミミの死に向かう音楽が始まる。*rall. sempre* ミミ「ここでは…愛が…いつもあなたと一緒に！」マフの中に手を入れ、その上に顔を傾ける、眠るように。「手が…暖かいわ…そして…眠ることが…」1幕のロドルフォが手を握りながら歌ったアリアのメロディが流れる中、ミミは昏睡に陥る。No.88 の最後の小節、ヴァイオリンソロが残って伸ばしている。2拍目で切る。そして8分休符フェルマータ。スコアには *lunga* とある。*lunga pausa* である。

次の瞬間、h-moll のホルンの和音が鳴り響く。死の音である。誰もまだミミの死に気づいていない。ロドルフォはミミが眠ったと思いきや安心してそっと離れマルチェッロに近づき「医者はどう言ったんだ？」と尋ねる。マルチェッロは「来るよ」と一言。ムゼッタはお祈りを始める。テンポは♩=60。「聖母マリ

ア様、この不幸な小さな娘にお恵みを。この人が死にませんように…」祈りの最中にチェロとコントラバスのピチカートで死を知らせている音が鳴る。ムゼッタ「ここに何か困いが欲しいわ、火が風で揺れるから。それでいいわ」お祈りの途中でマルチェッロに合図をし、本をテーブルの上を立てて風よけにする。お祈りを再開するとまたもチェロとコントラバスの死の知らせが響く。「…そして彼女が回復できますように」このあたりでショナールがミミの様子を見に近づき彼女の死に気づく。ムゼッタ「聖母マリア様、私はお許しをいただく資格がありませんが、その代りミミは天使様のようでございます」

ショナールは身動きできずに立ち尽くしている。ロドルフォに気づかれまいと動けないのだ。ロドルフォはムゼッタの方に近寄る。「僕はまだ希望をもっているんだ。君にはそんな危険な状態に見えるのかい？」ムゼッタ「そうは思わないわ」それを見たショナールはマルチェッロに駆け寄り息を詰めた声で「マルチェッロ、息を引き取っているぜ…」え!?!とマルチェッロはショナールの顔を見る。次にミミを見て近づき確かめる。本当だ、死んでいる。パッとロドルフォを見てまだ気づいてないことを知る。コルリーネが戻り外套を売った金をムゼッタのところへ持って行く。「ムゼッタ、君に!…」

No.89

S  
 ...rata...  
 COLL.  
 (entra cautamente e depone del danaro sulla tavola presso a Musetta) *a piacere*  
*sottovoce ppp*  
 Musetta,... a voi!...  
 (30)  
*mf a tempo*  
*dim.* *col canto* ..... *a tempo*

譜例 No.89 ㊸ 3小節目の1拍目フェルマータ。コルリーネの「Musetta,」を入れて2拍目再びフェルマータ、進んで「a voi」を入れる。

No.90

ROD.  
 (corre a Rodolfo per aiutarlo a stendere la mantig e gli chiede notizie di Mimi) *se*  
 C  
*pppp* *col c*

譜例 No.90 - 1小節目]=46 で止めずに動く。コルリーネがロドルフォを手伝うために走り寄り「どんな具合だ？」ロドルフォ「分かるかい？落ち着いているよ」菓の準備ができたマルチェッロを見たム



ゼッタはミミが死んだという事実を受け取り、ショックでコルリーネから受け取った金の袋を床に落としてしまう。静寂が破られうるたえるマルチェッロとショナールの異常な態度に気づいたロドルフォは、恐怖でのを詰まらせた声で「何が言いたい、そんなに行ったり来たりして…そんな風に俺をじっと見て…」

No.91

(non regge piu, corre a Rodolfo ed abbracciandolo gli grida)

MAR. *LARGO SOSTENUTO con angoscia*

(31) *LARGO SOSTENUTO*  
*ff* Coraggio.... *fff tutta forza*

(si precipita al letto di Mimi, la solleva e scuotendola grida colla massima disperazione)

ROD. Mimi.....

(si getta sul corpo esanime di Mimi)  
 (piangendo) Mimi.....

(Musetta, spaventata corre al letto, getta un grido angoscioso, buttandosi ginocchioni e piangente ai piedi di Mimi dalla parte opposta di Rodolfo - Schaunard si abbandona accasciato su di una sedia, a sinistra della scena - Colline va ai piedi del letto, rimanendo atterrito per la rapidità della catastrofe - Marcello singhiozza, volgendo le spalle al proscenio)

*Cala lentamente il sipario*

*p* *dim. sempre* *poco rall.....*

GRAVE

*ff* *dim.* *pp* *pppp*

譜例 No.91 ㊦ 1小節目1拍目の休符でロドルフォはマルチェッロからパッとミミの方へと視線を移す。ffで金管楽器が cis-moll の和音を鳴らし、ロドルフォはその場に崩れ落ちそうになる。マルチェッロは彼を支えながら「coraggio しっかりするんだ」と叫ぶ。ロドルフォはミミの側に寄り抱き起こして限らない絶望の叫びを上げる「ミミ… (泣き叫ぶ) ミミ…」終幕。

## 参考文献

- アンリ・ミュルジェ 1928年『ラ・ボエーム』森岩雄訳、東京：改造社。
- ジュリアン・バッデン『ジャコモ・プッチーニ 生涯と作品』、大平光雄訳、東京：春秋社。
- 南條年章 2004年『作曲家◎人と作品 プッチーニ』東京：音楽之友社。
- 水谷彰良 2006年『イタリア・オペラ史』、東京：音楽之友社。
- 宮沢縦一 1995年「プッチーニの生涯と芸術」、『プッチーニ』、東京：音楽之友社。
- ルイジ・リッチ 2007年『プッチーニが語る 自作オペラの解釈と演奏法』、三池三郎訳、  
東京：音楽之友社。